

コ・フェスタ2025 実施報告書



CoFesta

2025

令和8年3月
特定非営利活動法人映像産業振興機構

目 次

1 基本情報	
i はじめに（委員長挨拶）	2
ii 事業概要（事業目的・実施体制・運営組織）	3
実行委員一覧	4
iii イベント一覧	5
iv 百人委員会 企業一覧	6
2 コ・フェスタ実行委員会	7
3 プロモーション 広報制作物	8
4 イベント報告	
i コアイベント	9
ii オフィシャルイベント	18
iii パートナーイベント	36

- ・ 氏名は敬称略を基本とします。
- ・ 株式会社、有限会社、合同会社、独立行政法人は、それぞれ(株)、(有)、(同)、(独)と略することを基本とします。
- ・ 一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人は、それぞれ（一社）、（公社）、（一財）、（公財）、（特非）と略することを基本とします。
- ・ 国立研究開発法人、協同組合は、それぞれ（国研）、（協組）と略することを基本とします。

1 基本情報

1- i はじめに



コ・フェスタ実施報告書発行にあたり

コ・フェスタ 2025 実行委員長 迫本 淳一

皆様方におかれましては、「コ・フェスタ 2025」の開催に際しまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

コ・フェスタは、日本が世界に誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業、およびファッション、デザイン等、コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを統合的に海外へ発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトです。2007 年の発足から 19 年目を迎えた 2025 年度は、32 のイベントがコ・フェスタに認定され、リアルとデジタルが高度に融合する新たな時代のなかで、国内外から非常に多くの方々にご参加いただきました。

2025 年の日本のコンテンツ業界は、生成 AI をはじめとする先端技術の社会実装が一段と進み、クリエイティビティの枠組みが大きく拡張された一年となりました。また、2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開催を契機として、日本の文化・コンテンツに対する世界の注目はかつてないほど高まりました。日本コンテンツの海外市場規模は、今や日本の主要な輸出産業を凌駕する存在として確固たる地位を築いており、名実ともに経済成長を牽引する「基幹産業」へと進化を遂げています。

本年度のコ・フェスタ 2025 では、こうした国際的な機運を捉え、対面でのリアルイベントと、メタバースや SNS を通じたグローバルな情報拡散が相乗効果を生み出し、これまでにない規模でのファンコミュニティの拡大とビジネスチャンスの創出に繋がりました。コ・フェスタは、これまで培ってきた業界横断的なネットワークをさらに強固なものとし、日本のコンテンツが持つ力を世界へ届けるべく、努めて参ります。

ここに、関係各位のご協力のもと、コ・フェスタ 2025 の実施報告書がまとまりましたので、ご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、コ・フェスタ 2025 にご参加いただきましたコアイベント、オフィシャルイベント、パートナーイベントの主催者・後援者、また百人委員会各企業様および関係者の皆様方の多大なるご協力に重ねて御礼申し上げます。

1-ii 事業概要

■事業目的

日本のアニメ、マンガ、映画、音楽等のコンテンツは、クールジャパンを代表する要素であり、今後も更なる成長分野として期待されている。この成長を継続し、発展させていくためには、コンテンツの海外展開を通じた市場を拡大するとともに、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションを促進し、関連産業への波及を生み出していくことが重要である。このような観点から、本事業では、日本コンテンツに係るイベントのネットワーク構築を行い、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションの在り方等を検討し、国内外に向けて情報発信することで、日本コンテンツの市場拡大につなげることを目的とする。

■実施体制

本事業は特定非営利活動法人映像産業振興機構（VIPO）が経済産業省から受託した「令和6年度補正クリエイター・事業者支援事業費補助金（クリエイター・事業者海外展開促進）」の一環である。特定非営利活動法人映像産業振興機構がコ・フェスタ実行委員会、コ・フェスタ実行本部を設置し、本事業の検討と運営を行なった。

●コ・フェスタとは

コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）とは、日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを効果的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトである。

名 称：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）2025

主 催：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）実行委員会

開催場所：日本各地および海外

2025年度参加イベント：国内外32イベント

●取組内容

・イベント連携

イベント間の協力体制の促進のためコ・フェスタ実行委員会を実施し、各イベント主催者間やコンテンツ産業と他産業との連携のための情報共有等を図った。

■運営組織

●実行委員会 コンテンツ系各業界および関係省庁、関係団体からの委員で構成する。

●実行本部 実行委員会の方針のもとに、事業の運営、統括を実施する。



副委員長 依田 巽



副委員長 重延 浩



副委員長 松谷 孝征

【委員長】

迫本 淳一	さこもとじゅんいち	松竹株式会社 代表取締役会長
-------	-----------	----------------

【副委員長】

依田 巽	よだたつみ	一般社団法人 日本経済団体連合会 幹事 (ギャガ株式会社 代表取締役社長 CEO)
重延 浩	しげのぶゆたか	株式会社テレビマンユニオン 会長 ゼネラルディレクター 取締役
松谷 孝征	まつたにたかゆき	特定非営利活動法人 映像産業振興機構 理事長 (株式会社手塚プロダクション 代表取締役社長)

【委員】

片岡 進	かたおかすすむ	独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ） 副理事長
浪越 徳子	なみこしのりこ	一般財団法人 デジタルコンテンツ協会 専務理事
山下 直久	やましたなおひさ	株式会社KADOKAWA 取締役 代表執行役
稲葉 延雄	いなばのぶお	日本放送協会 会長
早河 洋	はやかわひろし	一般社団法人 日本民間放送連盟 会長
島谷 能成	しまたによししげ	一般社団法人 日本映画製作者連盟 会長
村松 俊亮	むらまつしゅんすけ	一般社団法人 日本レコード協会 会長
野間 省伸	のま よしのぶ	株式会社講談社 代表取締役社長
辻本 春弘	つじもと はるひろ	一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会 会長
安藤 裕康	あんどうひろやす	公益財団法人ユニジャパン 理事／ 東京国際映画祭 チェアマン
下地 毅	しもじつよし	一般社団法人 日本ファッション・ウィーク推進機構 理事長
矢内 廣	やないひろし	ぴあ株式会社 代表取締役社長

守山 宏道	もりやまひろみち	内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長
近藤 玲子	こんどうれいこ	総務省 大臣官房審議官（情報流通行政局担当）
岡野結城子	おかの ゆきこ	外務省 大臣官房（外務報道官・広報文化組織） 国際文化交流審議官
小林万里子	こばやしまりこ	文化庁 審議官
江澤 正名	えざわまさな	経済産業省 商務・サービスグループ 商務・サービス政策統括調整官
中野 岳史	なかの たけし	国土交通省観光庁 国際観光部 部長
江村 信彦	えむらのぶひこ	東京都 産業労働局観光部 部長

【監事】

島岡 唯信	しまおかただのぶ	一般社団法人 日本映画テレビ技術協会 専務理事
福浦 与一	ふくうら よいち	一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟 理事長

1-iii コ・フェスタ2025 イベント一覧

コアイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	東京ゲームショウ 2025	ビジネスデー：9月25日(木)・26日(金) パブリックデー：9月27日(土)・28日(日)	幕張メッセ
2	第38回東京国際映画祭	10月27日(月)～11月5日(水)	日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区
3	TIFFCOM 2025	10月29日(水)～31日(金)	東京都立産業貿易センター 浜松町館
4	第22回東京国際ミュージック・マーケット (22ndTIMM)	11月4日(火)～6日(木)	渋谷ストリームホール 他
5	AnimeJapan 2026	パブリックデー：2026年3月28日(土)・29日(日) ビジネスデー：2026年3月30日(月)・31日(火)	東京ビッグサイト

オフィシャルイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	KYOTO CMEX 2025	2025年7月～2026年3月	京都市勧業館みやこめっせ、京都国際マンガミュージアム、京都文化博物館、東映京都撮影所、松竹撮影所、東映太秦映画村など
2	Rakuten Fashion Week TOKYO 2026 S/S・A/W	2026S/S：2025年9月1日(月)～6日(土) 2026A/W：2026年3月16日(月)～21日(土)	渋谷ヒカリエ 他
3	CEATEC 2025(シーテック 2025)	10月14日(火)～17日(金)	幕張メッセ
4	国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2025 (東京ドラマアウォード 2025)	10月28日(火)	東京プリンスホテル
5	第52回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール	11月17日(月)～20日(木)	WITH HARAJUKU HALL
6	Tokyo Docs 2025	11月4日(火)～7日(金)	としま区民センター、あうるすぽっと
7	Inter BEE 2025	11月19日(水)～21日(金)	幕張メッセ
8	INTER BEE IGNITION × DCEXPO	11月19日(水)～21日(金)	幕張メッセ
9	2025 国際ロボット展	リアル会場：12月3日(水)～6日(土) オンライン会場：11月19日(水)～12月19日(金)	東京ビッグサイト
10	東京アニメアワードフェスティバル2026	2026年3月13日(金)～16日(月)	東京・池袋
11	CP+(シーピープラス) 2026	2026年2月26日(木)～3月1日(日)	パシフィコ横浜

パートナーイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	第47回びあフィルムフェスティバル2025	9月6日(土)～20日(土)	国立映画アーカイブ
2	京都国際マンガ・アニメフェア 2025	9月20日(土)・21日(日)	京都市勧業館みやこめっせ・ロームシアター京都 ほか
3	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 2025(第22回)	7月18日(金)～26日(土)	SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール/多目的ホール ほか
4	第41回 ATP 賞テレビグランプリ	7月24日(木)	東京プリンスホテル 2階 プロビデンスホール
5	第50回湯布院映画祭	8月21日(木)～24日(日)	ゆふいんラックホール
6	きものサローネ 2025	11月1日(土)・2日(日)	東京国際フォーラム E2ホール
7	第21回 吉祥寺国際アニメーション映画祭	2026年2月20日(金)～22日(日)	武蔵野公会堂
8	第17回京都ヒストリカ国際映画祭	12月2日(火)～7日(日)	京都文化博物館 ほか
9	MPTE AWARDS 2025 第78回表彰式	10月28日(火)	時事通信ホール
10	映文連 国際短編映像祭「映文連アワード 2025」	11月26日(水)～28日(金)	表彰式：国立新美術館講堂 上映会：新文芸坐
11	ヨコハマ・フットボール映画祭 2025	10月11日(土)・12日(日)	横浜市港北区民文化センター ミズキーホール
12	第17回 コンテンツ東京(CONTENT TOKYO 2025)	7月2日(水)～4日(金)	東京ビッグサイト(西展示棟)
13	JVA FESTA	隔年開催のため2025年度は未開催	—

海外パートナーイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	HYPER JAPAN Festival 2025	7月18日(金)～20日(日)	OLYMPIA EVENTS(英国ロンドン)
2	バンコク日本博 2025	8月29日(金)～31日(日)	クイーンシリキット国際会議場
3	Anime Festival Asia Singapore 2025(AFASG25)	11月28日(金)～30日(日)	Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre

1-iv 百人委員会 企業一覧

コ・フェスタを広く経済界から支援するため2007年に設立。
コンテンツ産業とその他の産業との連携及びグローバル展開の強化を目的とする。

■百人委員会 委員長

MS & AD インシュアランスグループ ホールディングス株式会社 取締役会長 柄澤 康喜

■委員一覧 百人委員会就任企業 86 社

株式会社 IHI	テレビ大阪株式会社
株式会社 IMAGICA GROUP	株式会社テレビ東京
株式会社 朝日新聞社	株式会社 電通
ウシオライティング株式会社	東映株式会社
KANAMEL 株式会社	東映アニメーション株式会社
株式会社 ADK エモーションズ	東海テレビ放送株式会社
株式会社 NHK エンタープライズ	東宝株式会社
MS & AD インシュアランスグループホールディングス株式会社	株式会社東北新社
沖電気工業株式会社	株式会社トーセ
株式会社 KADOKAWA	株式会社 トーハン
株式会社 カプコン	TOPPANホールディングス株式会社
関西テレビ放送株式会社	日活株式会社
株式会社 木下グループ	日揮ホールディングス株式会社
ギャガ株式会社	株式会社 日経 BP
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	日本コロムビア株式会社
キリンホールディングス株式会社	株式会社日本経済広告社
キングレコード株式会社	株式会社 日本経済新聞社
株式会社クオラス	日本航空株式会社
株式会社 講談社	日本テレビ放送網株式会社
株式会社コーエーテクモゲームス	日本電気株式会社
コダック合同会社	株式会社 博報堂
株式会社コナミデジタルエンタテインメント	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
株式会社ゴンゾ	株式会社バップ
株式会社サンリオ	株式会社バンダイナムコホールディングス
株式会社 CBC テレビ	びあ株式会社
松竹株式会社	株式会社ヒューマックスシネマ
スカパーJSAT 株式会社	株式会社フォーライフ ミュージックエンタテインメント
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス	株式会社フジテレビジョン
住友商事株式会社	株式会社ポニーキャニオン
セイコーエプソン株式会社	株式会社ホリプロ
ソニーPCL 株式会社	株式会社 毎日新聞社
ソニーグループ株式会社	株式会社毎日放送
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	株式会社みずほフィナンシャルグループ
大日本印刷株式会社	株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ
株式会社大和証券グループ本社	森ビル株式会社
株式会社タカラトミー	ユニバーサル ミュージック合同会社
中京テレビ放送株式会社	吉本興業株式会社
株式会社 TBS テレビ	讀賣テレビ放送株式会社
株式会社 テイチクエンタテインメント	株式会社読売新聞グループ本社
デジタルハリウッド大学	琉球放送株式会社
株式会社手塚プロダクション	株式会社レゾナック・ホールディングス
テレビ愛知株式会社	株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
株式会社テレビ朝日	株式会社 WOWOW

(2025年7月11日時点 五十音順)

コ・フェスタの最高意思決定機関として、上申された事項を審議、決議。コ・フェスタ各イベントの実施および広報活動ならびに各業界イベントとの協力体制の確認と強化を行なった。コ・フェスタ事業の目的を実行委員で共有し、意思統一を図ることができた。

●開催概要

日 時：2025年7月10日（木） 15:00-16:15

場 所：野村コンファレンスプラザ日本橋6F大ホール

参加者：実行委員、各イベント主催者、実行本部など49人

司 会：コ・フェスタ実行本部 映像産業振興機構・事務局次長 榎田寿文

議 長：コ・フェスタ実行委員長 迫本淳一

●会議内容

1 開会の挨拶

特定非営利活動法人映像産業振興機構 専務理事・事務局長 市井三衛

2 審議事項

・第1号議案 コ・フェスタ2025実行委員選任の件

・第2号議案 イベント承認の件

2025年7月10日時点のコアイベント5、オフィシャル11イベント、パートナー13イベント、海外パートナー3イベントの承認。コアイベントとオフィシャルイベントの各主催者からイベント概要説明が行われた。

3 報告事項

・コ・フェスタ百人委員会についての説明

4 関係各省庁よりコ・フェスタ2025海外展開支援へのメッセージ

内閣府、総務省、外務省、文化庁、経済産業省、国土交通省観光庁、東京都の7名からコ・フェスタ事業継続の重要性を込めたメッセージを頂いた。

内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長

守山 宏通

総務省 大臣官房審議官 情報流通行政局担当

近藤 玲子

外務省 大臣官房 文化交流・海外広報課 事業総括

高谷 知志

文化庁 審議官

小林万里子

経済産業省 商務・サービスグループ 商務・サービス政策統括調整官

江澤 正名

国土交通省 観光庁 国際観光部 部長

中野 岳史

東京都 産業労働局 観光部振興課 地域活性化担当課長

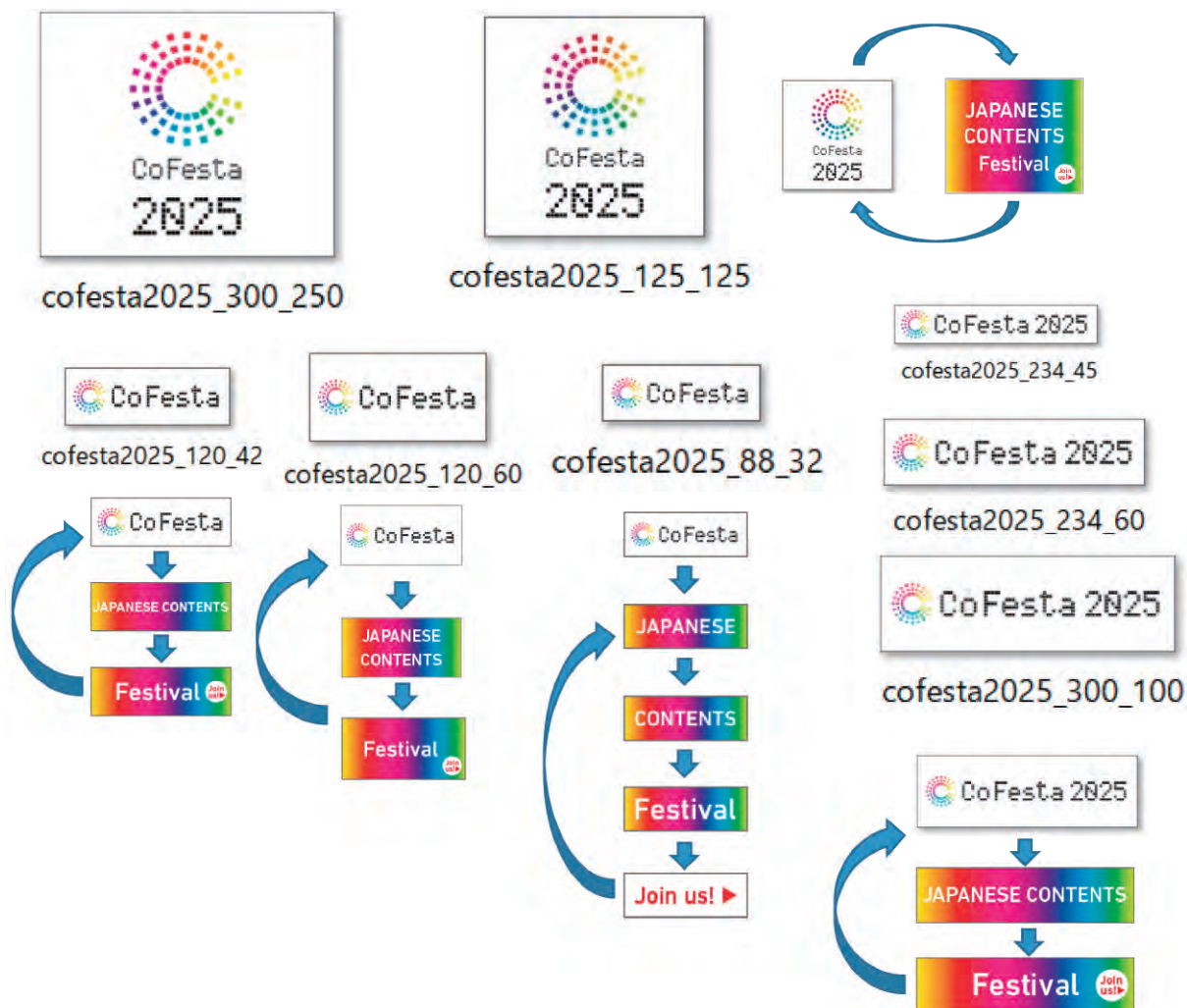
石橋 和之



3 プロモーション

■広報制作物

アニメーションGIFバナー：8サイズ



JPGバナー：8サイズ



コ・フェスタ 2025 ロゴのデザインの監修・制作を、クリエイティブスタジオの(株)OXCEに委託した。
デザイン：(株)OXCE

4- i コ・フェスタ2025 コアイベント

コ・フェスタ コアイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等において、コ・フェスタの集中的な支援による効果が期待できるイベントとして、コ・フェスタ実行委員会が認定したイベントである。2025 年度は 5 イベントが認定された。

1 東京ゲームショウ 2025

2 第38回東京国際映画祭

3 TIFFCOM 2025

4 第22回東京国際ミュージック・マーケット (22ndTIMM)

5 AnimeJapan 2026

コアイベント

東京ゲームショウ2025

TOKYO GAME SHOW 2025

会 期：2025年9月25日（木）～28日（日）
会 場：幕張メッセ
主 催：（一社）コンピュータエンターテインメント協会
共 催：（株）日経BP／（株）ソニー・ミュージックソリューションズ
後 援：経済産業省／文化庁
対 象：コンピュータエンターテインメント業界関係者および一般
公式サイト URL：https://tgs.cesa.or.jp

総来場者数（参加数）：263,101人
出展社数：1,136社 過去最多
内 訳：（国内出展社数：521社 海外出展社数：615社）
出展参加国と地域数：47の国と地域
ビジネスマッチング
・登録アカウント数：11,086（昨年：8,967）
・商談申込数：88,977（昨年：41,185）
・商談成立数：3,591（昨年：3,669）
プレス社数：非公開

■開催内容

世界中で拡大を続けるゲーム市場において、TGS2025は「遊びきれない、無限の遊び場」をテーマに、過去最大となる出展社数、出展小間数となり、263,101人の来場者が幕張メッセに集い、昨年の985社を大きく上回る1,136社の出展社が提供するコンテンツに一喜一憂するゲーム一色の4日間となった。リアル会場の出展小間数も4,157小間と過去最高を記録。1,136社の出展社のうち、615社が海外からの出展社であり、来場者においても68の国・地域から参加しており、海外にとって日本が依然、重視されている市場であることを示す結果となった。

オンライン企画として2020年から実施している公式番組は、TGSのYouTube公式チャンネルやX（Twitter）公式アカウント、ニコニコやSteamのTGS特設ページなどさまざまなプラットフォームで配信。中国向けにはDouYu、bilibili、Douyinといった動画メディア、欧米向けには世界最大級のゲームメディアであるIGNと連携して配信した。

ほとんどの番組は日本語版に加えて、英語の同時通訳版や字幕付き版も用意。一部の番組は、中国語の同時通訳付きも配信し、海外の方々にも多数で視聴いただいた結果、ライブ配信とアーカイブ配信を合わせた総視聴数は1,014万回となった（期間：9月23日～9月28日）。

ビジネスマッチングでは、今年もTGSビジネスマッチングシステムを稼働。同システムは出展社やビジネスデイル来場者であれば無償で登録・利用できるシステムとなっており、出展社の目的に沿ったマッチングをサポートしている。商談成立数は3,591となったほか、システムを利用した国・地域数は74カ国・地域となり、日本市場の注目度の高さを示す結果となった。



開会式



会場風景

東京ゲームショウ2025

TOKYO GAME SHOW 2025

近年では他業種からゲーム業界に参入する企業が世界規模で増えており、ビジネスエリアには昨年を上回る310の企業がブースを構え、ビジネスデイの2日間に3,500件以上のミーティングが行われた。ゲーム分野、そして日本で開催される東京ゲームショウというイベントプラットフォームに、ビジネス価値があると多くの出展社が判断した結果であると考えられる。

また、インディーゲームコーナーへの出展社数も顕著に伸びており、2025年は294社が出展。未来のAAAタイトルを生み出す可能性があるインディー開発者への関心は年々高まっており、企業や投資家達が彼らの作品を一目見ようと世界中から集まっている。インディー開発者の数も増え続けており、インディー開発者が無料で出展できる企画「Selected Indie 80」には80タイトルの狭き門に、過去最高の1,365タイトルの応募があった。

■ 2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

① オールアクセシビリティショーケース

新規に設置した「オールアクセシビリティコーナー」では、障がいの有無や年齢にかかわらず、すべての人がゲームを楽しむようにするソフトウェアやツール、サービスを紹介。その中で、主催者企画として「オールアクセシビリティショーケース」を設置し、健常者と障がい者が一緒にゲームプレイを楽しめる環境をショーケースで提供。

② TGSロゴモニュメント

TGSロゴ立体オブジェを来場メイン導線入口に設置し、高揚感を演出。多くの来場者に撮影していただき、SNS投稿が活発化した。



TGS モニュメント



ステージ



主催者コーナー
「親子で学ぶ! ゲームのトリセツ〜ゲームとじょうずにつきあおう!」



オールアクセシビリティコーナー

第38回東京国際映画祭

東京国際映画祭 TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL 2025

© 2025 TIFF

会 期：2025年10月27日（月）～11月5日（水）

会 場：日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区

主 催：（公財）ユニジャパン

共 催：経済産業省／国際交流基金（アジア文化交流強化事業）／

東京都（コンペティション部門、ユース部門、ウィメンズ・エンパワメント部門、アジア学生映画コンファレンス部門）

後 援：総務省／外務省／観光庁／千代田区／中央区／（独）日本貿易振興機構／国立映画アーカイブ／

（一社）日本経済団体連合会／東京商工会議所／（一社）日本映画製作者連盟／（一社）映画産業団体連合会／

（一社）外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）／

全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／（特非）映像産業振興機構／

（一社）日本映像ソフト協会／（公財）角川文化振興財団／（一財）デジタルコンテンツ協会／

（一社）デジタルメディア協会

助 成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画祭支援事業）

対 象：一般

公式サイト URL：2025.tiff-jp.net

総来場者数（参加数）：1,857,755人

出展参加国と地域数：39の国と地域

■開催内容

日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭として、才能溢れる新人監督から熟練の監督までを対象に、世界中から厳選されたハイクオリティなプレミア作品を集結させて、メインとなる長編コンペティション部門など様々な部門で国内外に発信。映画上映以外に学生、プロフェッショナル、ビジネス来場者を対象とした貴重なセミナー、シンポジウムやワークショップなども開催し、フォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルとして人と映画、ビジネスのリンケージを実現している。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

東京都の支援を受けて「アジア学生映画コンファレンス部門」を新設。映画祭の大きな目標の1つである「映画の未来の育成」を目指し、アジア各国の映画学校で映画を学んでいる学生を対象にした短編のコンペティションを実施。15本の作品を上映し、作品賞1本、審査委員特別賞2本を選出。中国、韓国などから各作品を作った学生を招聘しマスタークラスや交流会を開催するなど国際交流も果たした。



© 2025 TIFF



© 2025 TIFF



© 2025 TIFF



© 2025 TIFF



© 2025 TIFF



© 2025 TIFF

会 期：2025年10月29日（水）～31日（金）
 会 場：東京都立産業貿易センター 浜松町館
 主 催：経済産業省／総務省／（公財）ユニジャパン
 後 援：（一社）映画産業団体連合会／（一社）外国映画輸入配給協会／（一社）コンピュータエンターテインメント協会／
 （一社）デジタルコンテンツ協会／（協組）日本映画製作者協会／（一社）日本映画製作者連盟／
 （一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本経済団体連合会／（一社）日本動画協会／（独）日本貿易振興機構／
 （一社）日本民間放送連盟
 対 象：映画、テレビ、アニメーション、配信（OTT、VOD）、機内エンターテインメント、最新技術（CG／Digital／VR／AR）、原作（小説／コミック）／書籍の映画化／リメイク、IP（知的財産権）／ポストプロダクション／ロケーション誘致など
 公式サイト URL：<https://tiffcom.jp/>

総来場者数（参加数）：4,610人
 内 訳：（国内参加者数：2,705人 海外からの参加者数：1,905人）
 出展社数：322社
 内 訳：（国内出展数：128社 海外出展数：194社）
 出展参加国と地域数：46の国と地域
 ビジネスマッチング
 ・商談件数：7,767件
 プレス社数：TIFFCOM来場プレス数：全体115（国内：73／海外：42）

■開催内容

東京国際映画祭と併催で開催された第22回TIFFCOM 2025は、10月29日（水）～31日（金）の3日間、東京都立産業貿易センター 浜松町館で開催された。総参加者数は4,610人となり、前年比13%の増加、参加国・地域数は46に達した。

バイヤー、プロデューサー、インベスターを含む「VISITOR」登録者数は前年比17%増となり、会期後のアンケートにおいても「コンテンツ以外の商談を行った」と回答した参加者が増加し、TIFFCOMへの参加目的がビジネスパートナー／人脈づくりが最も多く、メディアコンテンツの購入を上回った。

出展数も前年比14%増となり、こちらもまたコンテンツセールス以外、業界関係者との交流や情報など作品のセールスだけでなくとどまらない目的をもって出展している。中国および韓国は映画とテレビコンテンツを中心とした2つのパビリオンを展開、タイは前年度よりもスペースを拡大し、台湾はブース内でイベントを実施するなど、海外パビリオンが各国でそれぞれ特色ある取り組みを行い、TIFFCOMを盛り上げた。

企画マーケットである「Tokyo Gap-Financing Market」では、優秀作品にアワードを設け、最終日に授賞式を実施した。IPマーケットも映像化の原作権を持つ出版会社に加え、リメイク権を持つ映像制作会社も参加する、「Tokyo IP Market: Adaptation & Remake」とリブランディングして、日本のIPによる新たな映像作品の製作をサポートした。

また、「日本のIPの海外展開」や「ASEANとの国際共同製作」などをテーマに、3会場にて20本のセミナーを開催した。実践的かつ多彩なプログラムにより、会場には延べ2,700人を超える参加者が集まった。

2025年は邦画実写作品の歴代興行収入記録が22年ぶりに更新されるなど、アニメだけでなくとどまらず実写作品を含む、エンターテインメント・コンテンツ全体への国内メディアの関心が高まった。その影響もあり、TIFFCOMの様子は朝の情報番組でも取り上げられた。本年のTIFFCOMは、作品の売買にとどまらず、企画開発やIP活用、国際共同製作を視野に入れた「ネットワーキング・プラットフォーム」としての機能を強化し、アジアにおけるコンテンツビジネスのハブとして着実な成長を示すマーケットとなった。



© TIFFCOM



© TIFFCOM

■ 2025 年度の新規取り組みとその成果・特色など

日本のIPに対する世界的な注目と需要の高まりを受け、従来マンガや小説などの出版社を中心に実施していたIPマーケットを拡張し、映像化の原作権を持つ出版社やリメイク権を保有する映像制作会社を新たに加えて、「Tokyo IP Market: Adaptation & Remake (TIPM)」へリブランディングした。初日のオープンピッチを皮切りに、会期3日間で100件を超える商談が行われた。

また、今年で6年目を迎えた企画段階の国際共同製作を支援する「Tokyo Gap-Financing Market (TGFM)」では、東南アジア地域からの企画選出が目立った。加えて、昨年発行した日伊映画共同製作協定を記念して選抜されたイタリア企画を含め、過去最多となる23企画が参加し、3日間で、400件を超えるミーティングが行われた。

さらに優れた企画を対象としたアワードを新設し、TIFFCOMの最終日に、東京国際映画祭の会場の一つである東京ミッドタウン日比谷にて、授賞式を開催した。



© TIFFCOM



© TIFFCOM



© TIFFCOM



© TIFFCOM

第22回東京国際ミュージック・マーケット(22ndTIMM)



会 期：2025年11月4日(火)～6日(木)
 会 場：商談会：渋谷ストリームホール
 セミナー：グーグル6階会場(渋谷ストリーム内)
 ライブ：Spotify O-EAST
 主 催：経済産業省／(一財)日本音楽産業・文化振興財団
 協 力：(一社)カルチャーアンドエンタテインメント産業振興会(CEIPA)
 後 援：(一社)コンサートプロモーターズ協会／(一社)私的録音録画補償金管理協会／(一社)日本音楽事業者協会／
 (一社)日本音楽出版社協会／(一社)日本音楽制作者連盟／(一社)日本音楽著作権協会／
 (公社)日本芸能実演家団体協議会／(独)日本貿易振興機構／(一社)日本レコード協会
 対 象：国内外の音楽業界関係者
 公式サイト URL：<https://www.timmjp.com>

総来場者数(参加数)：3,977人
 出展社数：26社
 内訳：(国内出展社数：23社 海外出展社数：3社)
 出展参加国と地域数：4の国と地域
 ビジネスマッチング
 ・登録アカウント数：出展社26社、海外バイヤー175名(事前登録258名)／23ヶ国・地域
 ・商談申込数：1,747
 ・商談成立数：22件(見込み含)
 プレス社数：9社
 内訳(国内プレス社数：9社 海外プレス社数：0社)

■開催内容

日本音楽の海外進出を支援する国際見本市「東京国際ミュージック・マーケット(TIMM)」は、22回目の開催となった今年度、日本の音楽産業の国際展開を一層推進すべく、昨年度に引き続き「音楽の街」渋谷を主会場として、11月4日～6日の3日間開催した。会場はプログラムごとに複数拠点を活用し、商談会・ネットワーキングを渋谷ストリームホールを中心に実施、ビジネスセミナーは渋谷ストリーム内のグーグルにて、ショーケースライブは3日間を通してSpotify O-EASTで行い、各プログラムとも概ね盛況を収めた。特に本年度はYouTubeの協力のもと、ビジネスセミナーおよびショーケース企画を大幅に強化し、グローバル市場の最新動向や海外展開戦略、AI活用、アジア連携などをテーマとした実践的なプログラムを展開したほか、ショーケースライブでは「YouTube Music Night presents ASIA DAY」を実施し、アジア各国・地域で活躍するアーティストを招聘するなど、国際性をより強く打ち出した内容となった。また、出展者・海外ゲストによるプレゼンテーション企画や、ライブ後のミート＆グリート、ウエルカムパーティー等を通じて、参加者間の交流とネットワーク形成を促進した結果、23か国・地域からの海外ゲストを含む多数の音楽関係者が参加し、出展者・バイヤー双方から高い評価を得た。加えて、年間を通して稼働しているオンラインのビジネスマッチングサイト「TIMM ONLINE」では、会期中の商談アポイント調整や会期後のフォローアップ、セミナーおよびショーケースライブのアーカイブ配信を行い、リアルとオンラインを連動させた参加者の利便性向上を図っている。



第22回東京国際ミュージック・マーケット(22ndTIMM)



■ 2025 年度の新規取り組みとその成果・特色など

1) 海外音楽ビジネス関係者(エージェント、プロモーター等)の招聘強化

近年の音楽ビジネスが、フィジカルを中心としたライセンス取引から、配信を基盤としたグローバルなマーケティング・プロモーション、ライブ・ツアー展開へと重心を移していることを受け、TIMMにおける海外招聘バイヤーについても、従来の音源ライセンスバイヤーに加え、現地でのプロモーションやツアー展開に直結するエージェント、ライブ・プロモーター、マーケティング関係者の招聘を継続的に強化した。本年度は23か国・地域から175名の海外ゲストが参加し、国際的なネットワーク形成の場としてのTIMMの役割をより明確に示す結果となった。出展者から要望の多い「新規人脈の開拓」という観点においても、多様な分野の海外関係者との接点が創出され、高い評価を得た。



2) 商談会・ネットワーキング機能の拡充

商談会場である渋谷ストリームホールでは、出展者26社による商談ブースに加え、フリーに利用可能な商談ラウンジを設置し、参加者が柔軟に交流・情報交換できる環境を整備した。また、4階フロアに簡易ステージを設け、出展者および海外ゲストによるプレゼンテーション企画を実施。アーティストやレーベル、プロダクションが自社の強みや海外展開戦略を直接発信する機会を創出し、聴講者からも高い関心を集めた。ラウンジエリアは終日多くの利用があり、偶発的な出会いを促すネットワーキング拠点として機能した。

3) ショーケースライブの国際性・発信力強化

ショーケースライブについては、出展の有無に関わらず出演エントリーを可能とする方式を継続し、過去実績や今後の海外展開計画を重視した選考を行った。これにより、海外展開を視野に入れたアーティストや国内で注目度の高い新進アーティストの参加が増え、日本の最新音楽シーンを国際的に発信する場としての機能が一層強化された。最終日にはYouTube Musicとの連携による「YouTube Music Night presents ASIA DAY」を実施し、アジア5か国・地域からアーティストを招聘。アジア市場との連携を強く打ち出す象徴的なプログラムとなり、海外ゲストからも高い評価を得た。

4) ビジネスセミナー内容の高度化・多様化

ビジネスセミナーでは、欧米・アジア市場の最新動向、海外ツアーの成功事例、YouTubeをはじめとするデジタルプラットフォーム活用、AIと音楽ビジネス、ダイバーシティといったテーマを軸に、2日間で計9本のセミナーおよび交流企画を実施した。複数会場での同時開催や中継、オンライン視聴にも対応し、参加者が関心やスケジュールに応じて柔軟に参加できる体制を構築した。いずれのセッションも実務的かつ国際的な視点に富んだ内容となり、参加者から好評を得た。

5) 交流促進施策の充実とネットワーク創出

ショーケースライブ終了後には、出演アーティストと海外ゲスト等が直接交流できるミート&グREETを実施し、ライブの熱量をそのままビジネス交流へとつなげる場を提供した。また、会期中に開催したウエルカムパーティーでは、出演アーティスト、海外ゲスト、国内関係者が一堂に会し、分野や立場を越えた交流が促進された。これらの施策により、TIMMを単なる見本市にとどめず、国際的な音楽ネットワーク形成の場としての価値をさらに高める結果となった。



AnimeJapan 2026



会 期：[パブリックデイ] 2026年3月28日(土)・29日(日)
[ビジネスデイ] 2026年3月30日(月)・31日(火)
会 場：東京ビッグサイト
主 催：(一社) アニメジャパン
後 援：経済産業省／(一社) 日本動画協会／コミック出版社の会
対 象：アニメーション文化全般ならびに日本の産業の発展につながる企業・団体
アニメやアニメコンテンツをビジネスとするバイヤー及びビジネス来場者
国内外のアニメファン
公式サイト URL：<https://www.anime-japan.jp/>

オフィシャルイベント

4-ii コ・フェスタ2025 オフィシャルイベント

コ・フェスタオフィシャルイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性に富んだイベントで、その国際性及び規模等においてコアイベントに準じ、コ・フェスタ実行委員会が承認したイベントである。本年度は 11 イベントが認定された。

- | | |
|----|--|
| 1 | KYOTO CMEX 2025 |
| 2 | Rakuten Fashion Week TOKYO 2026 S/S・A/W |
| 3 | CEATEC 2025 (シーテック 2025) |
| 4 | 国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2025 (東京ドラマアウォード 2025) |
| 5 | 第 52 回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール |
| 6 | Tokyo Docs 2025 |
| 7 | Inter BEE 2025 |
| 8 | INTER BEE IGNITION × DCEXPO |
| 9 | 2025 国際ロボット展 |
| 10 | 東京アニメアワードフェスティバル 2026 |
| 11 | CP+ (シーピープラス) 2026 |

KYOTO CMEX 2025

KYOTO CMEX

1) 全体概要

会 期：2025年7月～2026年3月
 会 場：京都市勧業館みやこめっせ／京都国際マンガミュージアム／京都文化博物館／東映京都撮影所／松竹撮影所／東映太秦映画村 他（オンライン視聴含む）
 テーマ：「京都発コンテンツの祭典 ～京都が創る新しい世界一先端コンテンツのクロスメディア～」
 主 催：KYOTO Cross Media Experience 実行委員会
 連 携：コ・フェスタ、京都学生祭典
 対 象：国内外や京都のコンテンツ産業関係者、若手クリエイターやクリエイターを目指す学生など
 参加者：1,419,792名（オンライン視聴含む） 2026.2.16 現在
 [オフィシャルイベント：1,269,861名／パートナーイベント：149,931名]
 ※昨年度：3,368,076名 [オフィシャルイベント：3,215,876名／パートナーイベント：152,200名]
 公式サイト URL：<https://cmex.kyoto/>

2) 個別事業概要

クロスメディア

●レセプション

開催日：9月19日（金）
 会 場：WORLD KYOTO
 参加者：114名
 内 容：KYOTO CMEX 事業を国内外に発信するとともに、コンテンツ産業に携わる国内外のトップランナーや若手クリエイター等の分野横断的な人材交流とネットワークを深めることを目的に実施した。

●コンテンツクロスメディアセミナー

内 容：業界で活躍するトップリーダーによるセミナーを開催し、コンテンツビジネスの可能性と未来像を探った。

〈第1回〉

開催日：10月9日（木）
 会 場：京都ブライトンホテル
 テーマ：デジタルで変わるマンガビジネス
 講 師：すがや みつる 氏（漫画家・日本マンガ学会会長）
 参加者：43名



〈第2回〉

開催日：11月25日（火）
 会 場：ハイアットリージェンシー京都
 テーマ：映画と言葉とスターたち～字幕翻訳の舞台裏～
 講 師：戸田 奈津子 氏（映画字幕翻訳者）
 参加者：201名

●京都クリエイティブ企業キャリアフォーラム

開催日：3月1日（日）
 会 場：京都コンピュータ学院京都駅前校
 出展数：17社
 参加者：208名
 内 容：京都に本社やスタジオを持つアニメ・ゲーム・CG等の制作事業者等を集め、クリエイティブ業界に特化した就職説明会を開催。



●コンテンツパッケージ授業

開催日：9月27日（土）～12月6日（土）
 会 場：キャンパスプラザ京都／京都国際マンガミュージアム
 参加者：15名
 内 容：コンテンツ分野に関する教育研究を推進している京都の諸大学が協力し、それぞれアート、デザイン、映画、マンガ、アニメ、ゲーム等の分野を分担してリレー講義することにより、京都から発展した日本の表現文化、映像文化を総合的に理解し、現状と展望を考える講義を実施した。

オフィシャルイベント

KYOTO CMEX 2025

KYOTO CMEX

●アニメプロジェクトGO-TAN！

□第7回古都コスプレ

開催日：9月20日（土）・21日（日）

会 場：梅小路公園 緑の館前

参加者：1,100名（コスプレ参加者：98名）

内 容：アニメ・マンガ・ゲームのキャラクターに扮するコスプレパフォーマーによるダンス・歌・芝居・殺陣を中心としたイベントを開催した。

●京都太秦シネマフェスティバル

開催日：10月25日（土）、11月15日（土）・16日（日）

内 容：「映画のまち 京都太秦」で、実際の撮影セットやプロの映画制作者など、本物のクリエイティブに触れる“メディアコンテンツ×地域コミュニティ”体験イベントを開催した。

□キッズ・シネマスタジオ

開催日：10月25日（土）

会 場：東映太秦映画村

参加者：21名

内 容：撮影所の本物の設備を使って、プロの映画監督・撮影所スタッフの指導により、子どもたちが楽しい映画作りを体験し、映画作りの魅力や関心を高めた。

作 品：「キッズ☆新撰組〜暴走!鞍馬天狗の巻」

□太秦上洛まつり

開催日：11月15日（土）・16日（日）

会 場：東映太秦映画村

参加者：8,500名（コスプレ参加者 933名）

内 容：今回は「遷〜Change〜」をテーマに実施。京都発のコンテンツを中心としたブース出展や、歴史ジャンルの出展などのほか、大河ドラマ『べらぼう〜蔦重栄華乃夢咄〜』の制作統括・藤並英樹氏をお迎えしてのトークイベント、撮影所見学ツアーも実施し、歴史創作コンテンツのクロスメディア発信拠点としての京都・太秦をPRした。



●京都アニものづくりアワード2025

開催日：（応募受付期間）5月12日（月）～7月11日（金）まで

（表彰式）9月20日（土）15：50～17：10

会 場：京まふ会場（みやこめっせステージ）

応募総数：99点

内 容：国内各所で発表されたアニメ、マンガ、キャラクター等を活用した異業種コラボ（商品タイアップ、広告映像、クラフトデザイン、地域創生）を紹介し、優れたものを表彰することで、よりクオリティの高いコラボコンテンツを増やしていくことを目的に開催。全99点の応募から、グランプリ1点を含め19点を表彰した。



●コンテンツの未来シンポジウム

開催日：9月19日（金）

会 場：ヒューリックホール京都

参加者：115名

内 容：京都のコンテンツ資産の活用やコンテンツ制作の未来に向けて、経団連協力のもと、産業界、大学それぞれの立場からコンテンツの未来を考えるシンポジウムを開催した。

映画・映像

●京都ヒストリカ国際映画祭

開催日：12月2日（火）～7日（日）

会 場：京都文化博物館／オンライン

参加者：2,201名

オンライントーク視聴回数：11,948回

内 容：歴史映画をテーマにした国際映画祭。京都文化博物館シアターで16本を上映したほか、VR映画の展示、監督等をゲストに招いたオンライントーク「夜のヒストリカ」をフリンジ企画として開催。



KYOTO CMEX 2025

KYOTO CMEX

【ヒストリカ・スペシャル】

「雄呂血〈4Kデジタル修復版〉」を活弁・演奏付で上映。上映後は「侍タイムスリッパ」の安田淳一監督と俳優の田村幸士氏によるトークショーを実施。

【ヒストリカ・ワールド】

パウロ・アブレウ監督の『UBU』をはじめ、『マゼラン』『海を約束してくれた先生』『裏か表か?』の世界の新作歴史映画4作品を上映。

【ヒストリカ・フォーカス】

“アンチ・カタルシス”をテーマに、『仇討ち』をはじめとする6作品の特集を組み上映した。

【その他連携企画】

ボローニャ復元映画祭、イタリア文化会館-大阪、ヴェネツィア・ビエンナーレ・カレッジ・シネマ、京都映画企画市、京都フィルムメーカーズラボと連携した。

【ヒストリカお座敷】

京都文化博物館の6階で映画というジャンルをハブに、ゲーム、アニメ、生成AI等のクリエイターが、様々なテーマで車座になってトークを行う「ヒストリカお座敷」を開催。

今回は70畳×3部屋のスペースを「トーク」「展示」に分け、トップクリエイターのレクチャーや作品展示、ショート動画制作のワークショップを行い、コンテンツのクロスメディア展開や人材育成・交流を図った。

【HISTORICA × X (クロス)】

「AIクリエイティブ最前線〜映像、ゲーム、XRで発展するコークリエーションパイプライン〜」をテーマに、AIエージェント分野において最も著名なサービスの一つであるManusのソリューションスペシャリストであるShu, Ashley Harayama氏を招き、映像制作におけるAI活用事例等について国内のクリエイターやプロデューサーと共にトークセッション・セミナーを行った。

●京都フィルムメーカーズラボ

開催日：12月2日（火）～7日（日）

会場：松竹撮影所／東映京都撮影所／京都文化博物館ほか

参加者：718名

□ハンズオン時代劇

若手映像クリエイターを対象に、松竹撮影所、東映京都撮影所のオープンセットにて、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、本格的時代劇を体験するワークショップを開催した。

□マスターズセッション

東京国際映画祭やヴェネチア国際映画祭など、国内外の国際映画祭との連携をベースに、著名な映画人や映像ビジネス関係者等を招聘し、映画・映像制作に関するレクチャー・ディスカッションを実施した。

〈講師〉

アレッシオ・リゴ・デ・リーギ（映画監督）、マッテオ・ゾッピス（映画監督）、サヴィーナ・ネイロッティ（Director, Trino Film Lab）、片瀬須直（アニメーション監督）、ヴィンチェンツォ・カヴァッロ（映画監督）、真田幹也（映画監督、俳優）、平山貴子（Film Solutions(株)）、和田亮一（TOKYO EPIC 代表取締役社長）、樋口真嗣（映画監督）



●第17回京都映画企画市

□映画企画コンテスト・優秀映画企画上映会

開催日：10月4日（土）

会場：ハートピア京都

参加者：58名

内容：時代劇の拠点としての京都の優位性を活かし、若手クリエイターが世に出る仕組みを構築するため、若手映画・映像製作者（監督、プロデューサー等）を対象とした時代劇企画コンテストを実施した。

また、2024年度優秀作品企画の栗本慎介監督『引かれ者の小唄』のパイロット版を上映した。

応募企画数：29企画

優秀賞作品企画：『語り葉帖』

企画者：緑茶 麻悠・佐伯 龍蔵（監督・脚本）

〈評価者〉

犬童 一心 [監督]

矢島 孝 [松竹(株) 映像企画部映画企画室プロデューサー]

和田 隆 [映画記者／プロデューサー]



オフィシャルイベント

KYOTO CMEX 2025

KYOTO CMEX

□映画企画相談会

開催日：9月13日（土）

会 場：オンライン

参加者：8名（第17回京都映画企画市ファイナリスト5名と評価採点上位者から3名を選出）

内 容：第一線で活躍するプロデューサーによる企画指導
〈指導者〉

久保田 傑（㈱オフィス・シロウズ プロデューサー）

永井 拓郎（㈱リキプロジェクト 代表取締役）

マンガ・アニメ

●京都国際マンガ・アニメフェア【略称：京まふ】

開催日：9月20日（土）・21日（日）

会 場：京都市勧業館みやこめっせ 等

動員数：819,866名（うちオンライン視聴者数：783,550名）

内 容：マンガ・アニメ・ゲームを活用した新たなビジネスの創出支援、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者・外国人をはじめとした新たな観光客の掘り起こし、マンガ・アニメ・ゲーム文化の海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上など、京都市におけるコンテンツ市場の振興を図るため、西日本最大規模のマンガ・アニメ・ゲームの総合見本市を開催した。



●マンガ・アニメイベント

開催日：9月20日（土）・21日（日）

会 場：京都市勧業館みやこめっせ／ロームシアター京都 他 ※京まふ会場で実施

動員数：794,158名（うちオンライン視聴者数：783,550名）

内 容：人気声優等のトークイベントやアニメ上映会など、出展者によるステージイベントを実施した。今年度は、人気作品によるステージイベントのオンライン配信視聴者数が過去最高を更新した。また、和装振興の一環として多くのステージ登壇者に着物を着用いただいた。

●マンガ出張編集部

開催日：11月15日（土）・16日（日）

会 場：京都国際マンガミュージアム

出展数：54編集部

持込者：213名（2日間合計）

内 容：首都圏を中心とした出版社のマンガ編集部を招き、マンガ家志望者が原稿を持ち込んで添削やアドバイスを受けられる場を創出した。また、新しい取組として、“連載をつかむために必要なこと”をテーマにマンガ編集者による「編集者座談会」を開催した。

●京都国際マンガミュージアムイベント

開催日：7月12日（土）～11月25日（火）

会 場：京都国際マンガミュージアム

内 容：戦後80年の節目を機にさまざまな「戦争マンガ」を紹介する企画展「マンガと戦争展2」を開催。4象限で示すテーマごとに戦争マンガを紹介する展示や、今読むべき／鑑賞すべき戦争マンガの原画として、新里堅進さんと大白小蟹さんの作品を展示しました。インタビューコメント展示を実施した。



●京都国際クリエイターズアワード

応募メ切：8月31日（日）まで

応募総数：630作品（※71の国と地域から応募あり）

コミックコンテスト	543作品
デジタルアニメコンテスト	87作品

内 容：マンガ家やアニメ等のクリエイター志望者が京都を通じてデビューする機会を創出するため、コミックコンテスト及びデジタルアニメコンテストの2つのコンテストからなる国際コンテストを開催した。



コミックコンテスト
最優秀賞
『封世誅斬』

KYOTO CMEX 2025

KYOTO CMEX

●滞在型ワークショップ「Field KYOTO」

開催日：2026年3月14日（土）・15日（日）

会 場：妙心寺壽聖院等

参加者：9名

内 容：京都を題材とした創作活動に資する知識の習得や体験を行いながら、京都を題材とした作品企画に繋がるよう、フィールドワークやプロット作成などの滞在型ワークショップを実施。

ゲーム

●BitSummit

開催日：7月18日（金）～20日（日）

会 場：京都市勧業館みやこめっせ（オンライン併催）

来場者数：58,065名（オンライン参加：352,359名）

内 容：日本のインディーゲームを国内外のゲームファンやメディアに広く情報発信し、ゲーム分野だけではなく異分野の企業・人々との新たなビジネスマッチングを目的にインディーゲームの展示会を開催。デジタル・アナログともにインディーゲーム市場の活性化やゲームによる産業振興を図った。

※国内出展数：60 国外出展数：62



メタバース

●京都館PLUS X

内 容：インターネット上の仮想空間に開設した京都市の新たな情報発信の拠点として、京まふやSNSのインフルエンサーと連携するなど、京都をより身近に感じていただける情報発信を実施した。

オフィシャルイベント

Rakuten Fashion Week TOKYO 2026 S/S・A/W

Rakuten
Fashion Week TOKYO
Rakuten

会 期：2026 S/S：2025年9月1日（月）～6日（土）
2026 A/W：2026年3月16日（月）～21日（土）
会 場：渋谷ヒカリエ 他
主 催：（一社）日本ファッション・ウィーク推進機構
後 援：経済産業省／外務省／知的財産戦略本部／（独）日本貿易振興機構／
（独）中小企業基盤整備機構／東京都／（一社）日本経済団体連合会／
日本商工会議所／東京商工会議所／（一財）日本ファッション協会／
（一社）日本アパレル・ファッション産業協会／（一財）ファッション産業人材育成機構／
（一社）日本百貨店協会／渋谷区／渋谷区商店会連合会／日本ジーンズ協議会
協賛／連携：TITLE SPONSOR：楽天グループ（株）
SPECIAL SUPPORTING PARTNERS：（26SS）東急（株）／渋谷ヒカリエ
SPECIAL SUPPORTING PARTNERS：（26AW）東急（株）／渋谷ヒカリエ
OFFICIAL PARTNER：（26AWのみ）パナソニック（株）
SUPPORTING PARTNERS：東レ（株）／（株）オンワードホールディングス／（株）TSIホールディングス／
伊藤忠商事（株）／（株）ワールド／ニッケ（日本毛織（株））／
スタイルム瀧定大阪（株）／瀧定名古屋（株）／（株）大丸松坂屋百貨店
公式サイト URL：https://rakutenfashionweektokyo.com/jp/



CEATEC 2025(シーテック 2025)

CEATEC
Innovation for All

会 期：2025年10月14日(火)～17日(金) 10:00～17:00
 会 場：幕張メッセ(千葉県千葉市美浜区中瀬2-1)
 主 催：(一社)電子情報技術産業協会(JEITA)
 共 催：(一社)情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)／(一社)ソフトウェア協会(SAJ)
 後 援：総務省／外務省／厚生労働省／経済産業省／国土交通省／デジタル庁
 (独)日本貿易振興機構(ジェトロ)／(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)／
 (国研)産業技術総合研究所(AIST)／(国研)情報通信研究機構(NICT)／(独)情報処理推進機構(IPA)／
 (独)中小企業基盤整備機構／千葉県／千葉市／日本放送協会(NHK)／(一社)日本民間放送連盟／
 (一社)日本経済団体連合会／(一社)日本自動車工業会／日本商工会議所／東京商工会議所／千葉商工会議所／
 (一財)日欧産業協力センター／カナダ共和国大使館 オンタリオ州政府／在日ウクライナ大使館／
 駐日ラトビア共和国大使館／駐日ウズベキスタン共和国大使館
 公式サイト URL：<https://www.ceatec.com/ja/>

総来場者数(参加数)：98,884人
 出展社数：810社
 内訳：(国内出展社数：654社 海外出展社数：156社)
 プレス社数：635名

■開催内容

CEATEC 2025は、日本最大級のデジタルイノベーション総合展として2025年10月14日(火)～17日(金)に幕張メッセ(千葉市)で開催された。開催テーマは「Innovation for All」であり、テクノロジーが社会や暮らしにどのように貢献するかを広く示す場であった。

本展示会は(一社)電子情報技術産業協会(JEITA)が主催し、(一社)情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)、(一社)ソフトウェア協会(SAJ)が共催した。

出展規模は810社／団体におよび、国内外から多様な企業が参加した。これら出展者はAI、IoT、6G、ロボティクス、スマートモビリティ、デジタルヘルス、持続可能な技術など最新技術・ソリューションを展示し、未来社会の実現に向けたビジョンを提示した。来場者は98,884人を数え、幅広い業種・産業の企業関係者、官公庁・自治体・研究機関の関係者から、学生まで多様な層が訪れた。

展示会にはテーマごとの多彩なエリアが設けられ、暮らしのDXや海洋デジタル社会、地方創生、グローバルパーク、AX(AI Transformation)パーク、ネクストジェネレーションパークなど、イノベーションに直結するゾーンが配置された。また、AIを活用した共創体験ツアーやビジネスマッチング企画も実施され、参加者同士のコラボレーション機会が強化された。

またコンファレンスとしては、業界リーダーや技術者による講演・パネル討論など226本に及ぶコンファレンスとセッションが行われ、出展技術の背景や社会実装の可能性について深掘りする場となった。

さらに、優れた技術・サービスを表彰するCEATEC AWARD 2025も注目の企画として実施され、総務大臣賞・経産省大臣賞・デジタル庁大臣賞をはじめ各部門賞として、社会課題解決に資する先進的成果が選ばれた。

CEATEC 2025は、展示会の枠を超え、技術と社会課題を結び付ける「共創の場」として、幅広い関係者が集い、新たな価値創出につながる交流と未来構想の発信拠点となった。



■ 2025 年度の新規取り組みとその成果・特色など

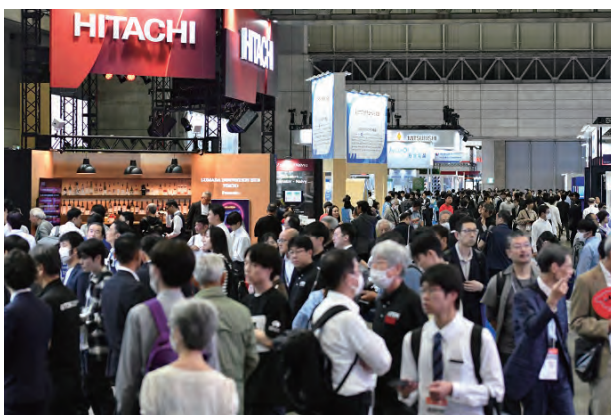
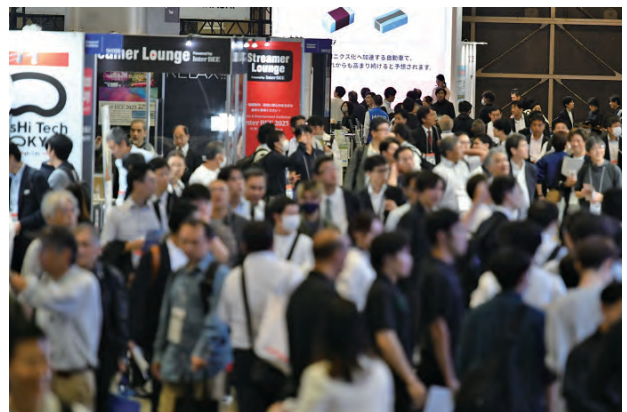
▼ ビジネスマッチングシステムの導入

CEATEC 2025 では従来の展示・コンファレンス中心の構成に加え、「共創」をより強化する新規取り組みとして、ネクストジェネレーションパークを中心にビジネスマッチングやパートナー探索の機会を体系的に提供し、具体的な協業機会につなげる仕組みが強化された。

▼ エコ&デザインチャレンジ制度を新設

CEATEC 2025 では、新たな取り組みとして「エコ&デザインチャレンジ」を導入した。本取り組みは、(一社)日本イベント産業振興協会 (JACE) の協力のもと実施されたもので、展示会運営における環境負荷低減と、展示空間全体のデザイン価値向上を同時に実現することを目的としたものである。出展者が環境配慮と創意工夫を両立した展示手法に挑戦する機会を提供し、持続可能な展示会の在り方を社会に発信することを狙いとしている。

エコ&デザインチャレンジでは、再利用可能な部材の活用、廃棄物削減につながる設計、エネルギー使用量の抑制といった環境配慮の視点に加え、来場者の理解を促進する分かりやすい構成や、メッセージ性の高い空間演出など、デザイン性の観点を評価軸として設定した。これにより、単なる省資源対応にとどまらず、環境配慮そのものを価値として伝える展示表現を促進した。



国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2025
(東京ドラマアウォード2025)



会 期：2025年10月28日（火）
会 場：東京プリンスホテル
主 催：国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会
（構成団体）日本民間放送連盟／TBSテレビ／日本テレビ放送網／テレビ朝日／フジテレビジョン／テレビ東京／
WOWOW／日本放送協会／日本映画製作者連盟／松竹／東宝／東映／KADOKAWA／日本音楽事業者協会／
実演家著作隣接権センター／全日本テレビ番組製作社連盟／日本映画テレビプロデューサー協会
後 援：総務省／経済産業省
協 賛：(株)電通／(株)博報堂
対 象：業界関係者

総来場者数（参加数）：約300人
プレス社数：36社
内訳（国内プレス社数：36社 海外プレス社数：0社）

■開催内容

◆「東京ドラマアウォード2025」授賞式

- ・司 会：三谷幸喜、有働由美子
- ・登壇者：松坂桃李、奈緒、角田晃広、杉咲花、芳根京子、本田響矢、加藤小夏ほか

●受賞作品

作品賞＜連続ドラマ部門＞

- グランプリ 「海に眠るダイヤモンド」TBSテレビ
- 優秀賞 「べらぼう〜鳶重栄華乃夢噺〜」日本放送協会
- 優秀賞 「東京サラダボウル」日本放送協会
- 優秀賞 「ホットスポット」日本テレビ放送網
- 優秀賞 「御上先生」TBSテレビ
- 優秀賞 「夫の家庭を壊すまで」テレビ東京
- 優秀賞 「波うららかに、めおと日和」フジテレビジョン
- 優秀賞 「ゴールデンカムイ 北海道刺青囚人争奪編」WOWOW

作品賞＜単発ドラマ部門＞

- グランプリ 「スロウトレイン」TBSテレビ
- 優秀賞 「憶えのない殺人」日本放送協会
- 優秀賞 「新・暴れん坊将軍」テレビ朝日
- 優秀賞 「三谷幸喜『おい、太宰』」WOWOW

- ローカル・ドラマ賞 「ススキノ・インターン〜マーケ学生ユキナの、スナック立て直し記〜」北海道テレビ放送
- 「迷子のわたしは、諦めることもうまいかない」中京テレビ放送



■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

前回に続き、授賞式のYouTubeでの配信を実施。全世界向けに配信を行い、ライブ配信の同時視聴者数は最大2,400人超だった。アーカイブ配信は、インプレッション数が35.7万、視聴回数が2.7万回だった（2026年1月末時点）。

また、東京ドラマアウォードは、2026年度以降、日本映画テレビプロデューサー協会が主催するエランドール賞に統合し、同賞に東京ドラマアウォードのコンセプトを継承する新たなアウォードを創設いただくことになった旨を公表した。



司会



連続ドラマ部門グランプリ
『海に眠るダイヤモンド』



単発ドラマ部門グランプリ
『スロウトレイン』

第52回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール

JAPAN PRIZE 2025

会 期：2025年11月17日（月）～20日（木）

会 場：WITH HARAJUKU HALL

主 催：日本放送協会

対 象：国内外を問わず、教育および教育コンテンツに関心のあるすべての人々

公式サイト URL：https://www.nhk.or.jp/jp-prize/

総来場者数（参加数）：772人（リアル参加のみの数）

■開催内容

NHKが主催する、教育をテーマにした映像コンテンツの国際コンクール「日本賞」。第52回目を迎えた今回は、11月17日（月）～20日（木）に「日本賞映像祭」を東京・原宿のWITH HARAJUKU HALLで開催。イベントのオンデマンド配信も行った。また、最優秀賞・優秀賞などのコンクールの結果の一部を事前に発表して海外から受賞者を招聘。36の国と地域から64名の参加があった。国内からも番組制作者をはじめ、教育コンテンツに関心を持つ人が多く参加した。会場でのリアル参加者が772名、オンデマンド配信でのイベント・作品の視聴数も延べ1,305回とよく見られた。

今年の「日本賞映像祭」の軸となったのは、「上映会＆ディスカッション」。各部門最優秀賞および優秀賞作品を上映の後、参加者同士でディスカッションを行い、続けて受賞作品の制作者と審査委員が登壇。制作者は作品が生まれたきっかけや制作秘話を語り、審査委員は作品の評価ポイントなどについてコメントした。さらに登壇者と参加者のインタラクションを活発にするため、NHKの放送でも使用している投稿システムを活用し、議論が大いに盛り上がった。こうした結果、イベント参加者の満足度が97.4%と非常に高いレベルにまで達した。

また、予算・機材など制作条件が十分でない国・地域での教育コンテンツの企画の実現を支援する「企画部門」では、会期中の17日に、インドやブラジルなどから一次審査を通過した6名が、自分たちの企画に関するプレゼンテーションを行った。

最終日の20日には授賞式が行われ、秋篠宮皇嗣妃殿下にご臨席賜り、各部門最優秀賞4作品の中から選ばれた「グランプリ日本賞」と企画部門の最優秀賞と優秀賞が発表された。最高賞である「グランプリ日本賞」には、エジプト南部の村で少女たちが演劇を通して反骨精神を表現しようと取り組む姿を4年間にわたって撮影した「夢と運命の境界で エジプト 少女たちの岐路」が選ばれた。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

開催内容でも触れたとおり、2025年度の特色は、双方向性を高めるため、NHKが放送でも使用している投稿システムを利用したことである。英語が苦手な日本人参加者も携帯電話の翻訳アプリなどを活用するなど、会場の多くの人がこのシステムにより、自分の意見や質問をステージ上のコンテンツ制作者に届けることができた。こうした取り組みにより、登壇者との距離が縮まることで議論が活発化し、満足度向上に大きく寄与したと考えられる。



Tokyo Docs 2025

Tokyo
Docs

会 期：2025年11月4日（火）～7日（金）
 会 場：としま区民センター／あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）
 主 催：（特非）Tokyo Docs／（一社）全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）
 後 援：総務省／経済産業省／東京都／国際交流基金／NHK／民放連／放送批評懇談会／放送人の会／全映協／映文連／豊島区
 特別協力：LINE ヤフー
 協 力：BEAJ／TIFFCOM
 対 象：国内外のドキュメンタリー制作者
 公式サイト URL：https://tokyodocs.jp/

総来場者数（参加数）：486人
 出展社数：20社（※ピッチング参加者数）
 内訳：国内出展社数：10社 海外出展社数：10社
 出展参加国と地域数の国と地域：日本およびアジア各国・地域を中心とする11の国と地域から参加があった。
 ビジネスマッチング
 登録アカウント数：商談ミーティング件数 425件

■開催内容

第15回目を迎えたTokyo Docsは、2025年11月4日（火）から7日（金）までの4日間、豊島区池袋の「としま区民センター」および「あうるすぽっと」を会場として開催した。日本から10企画、アジア各国・地域から10企画の計20企画が参加した。各企画には14分の持ち時間を設け、前半7分で企画概要の説明および映像上映を行い、後半7分で会場に参加した海外ゲスト等との質疑応答を実施した。これにより、国際共同制作を見据えた具体的かつ実践的な意見交換が活発に行われた。

また、11月5日には「ショート・ドキュメンタリー・ショーケース」を実施し、厳選された5作品を上映した。あわせて各制作者によるプレゼンテーションを行い、作品の国際的な発信および次段階への展開を促進した。

さらに、本年度は国際展開についてより深く学ぶ機会を提供するためワークショップを拡充し、その一部を一般公開とすることで、幅広い世代への認知向上を図った。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

本年度は、新たな取り組みとして「アート・カルチャーが日常にあふれるまち」を掲げる豊島区との連携を一層強化した。豊島区民への参加呼びかけを体系的に行い、地域と連動した事業運営の仕組みを構築した。

11月4日に実施したワークショップでは、豊島区にキャンパスを構える立教大学と連携し、これまでTokyo Docsに参加してきた監督による短編ドキュメンタリー作品を上映した。上映後には、立教大学映像身体学科の教授3名と監督によるトークセッションを実施し、作品に込められたテーマや作家自身の内面について、多角的かつ専門的な視点から掘り下げる機会を創出した。大学・地域・国際事業を結びつける新たな学びの場として、継続可能な連携モデルを示す試みとなった。

11月4日に池袋ランチ会、5日にアワードセレモニーを「あうるすぽっと」で開催し、海外ゲストおよびアジア・日本のピッチ参加者を対象としたネットワーキングの場を設けた。ジャンボ餃子やおにぎり、地ビールなど池袋ならではの飲食を提供することで、交流を促進すると同時に地域資源の発信を行った。



オフィシャルイベント

Inter BEE 2025

Broadmedia & Entertainment
Inter BEE 2025

会 期：2025年11月19日（水）～21日（金）
会 場：幕張メッセ
主 催：（一社）電子情報技術産業協会
共 催：第62回民放技術報告会／全映協フォーラム 2025 in 幕張
後 援：総務省／経済産業省（建制順）／NHK／（一社）日本民間放送連盟（JBA）／（一社）電波産業会（ARIB）／
（一財）デジタルコンテンツ協会（DCAJ）／（一社）放送サービス高度化推進協会（A-PAB）
対 象：映像・音響制作者、放送事業者、及び、インターネット・通信・照明・舞台・エンタメ・メディアビジネス関係者
公式サイト URL：<https://www.inter-bee.com/>

総来場者数（参加数）：34,072人

内 訳：（国内入場者数（参加数）：33,037人 海外入場者数（参加数）：1,035人）

出展社数：1,079社

内 訳：（国内出展社数：513社 海外出展社数：566社）

出展参加国と地域数：44の国と地域

プレス社数：213社

内 訳：（国内プレス社数：207社 海外プレス社数：6社）

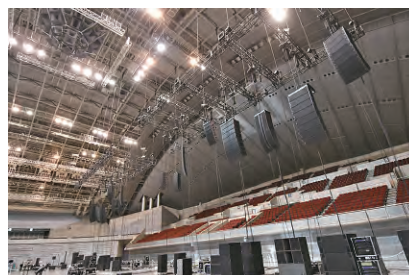
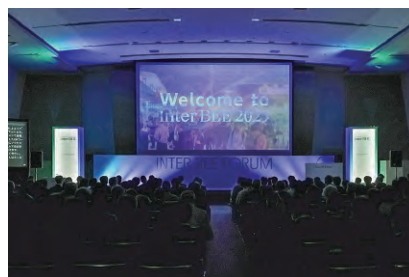
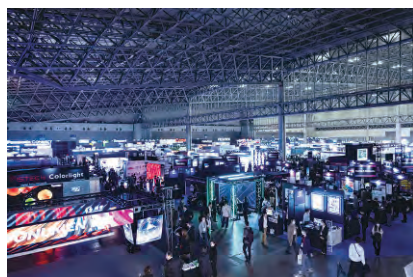
■開催内容

Inter BEEは、メディア&エンターテインメント産業分野における日本最大級のメディア総合イベントであり、音響、映像、放送、ライブエンターテインメント、ライティング、通信・配信関連等のプロフェッショナルはもとより、幅広い分野の技術者・クリエイター・ステークホルダーが一堂に会する展示会として開催された。今年で61回目の開催となるInter BEEは、コンテンツを「つくる（制作）」、「おくる（繋げる）」、「うける（体験）」の全ての領域を網羅し、メディアとエンターテインメント分野の最新情報とビジネスの場を提供した。

国際会議場では基調講演および特別講演、展示会場では特別企画のオープンステージにて企画セッションを実施。業界のエキスパートによる各分野の最新動向の発表や課題の提案等、多様なコンファレンスが展開された。また会期初日には、幕張メッセ国際会議場のコンベンションホールAにおいて、レセプションパーティーやINTER BEE AWARDの表彰式を開催。業界関連団体関係者、出展者、業界関連プレス、コンファレンス関係者、ユーザ（放送局、映像制作等）等計504名が参加し、有益な交流・情報交換の場がもたれた。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・YouTuberや各種クリエイターの来場者を対象とした『Streamer Lounge（専用ラウンジ）』を会場内に設置。映像配信・動画制作を行う来場者が、取材・撮影・編集・配信を円滑に実施できる拠点として展開。
- ・第2回目の開催となる「INTER BEE AWARD」において、審査委員会特別賞の新設と、より多様な製品・サービスの表彰。



INTER BEE IGNITION × DCEXPO

INTER BEE IGNITION × DCEXPO

会 期：2025年11月19日（水）～21日（金）

会 場：幕張メッセ ホール6

Inter BEE主催：（一社）電子情報技術産業協会

Inter BEE運営：（一社）日本エレクトロニクスショー協会

INTER BEE IGNITION × DCEXPO共同運営：（一財）デジタルコンテンツ協会

対 象：XR（VR/AR）、メタバース、AI、CG、ブロックチェーン、3D映像 / 音響、超臨場感映像、プロジェクションマッピング、ドローン、ロボティクス、ライブエンターテインメントテクノロジー、空間演出、演出用特機、照明システム、その他先進映像表現技術、等の関連企業・団体

公式サイト URL：<https://inter-bee.com/2025/ja/forvisitors/conference/ignition/>

総来場者数（参加数）：34,072人（InterBEE 2025全体の実績値） 昨年対比219名UP

内 訳：（国内入場者数（参加数）：33,037人 海外入場者数（参加数）：1,035人）

出展社数：55社 昨年対比34% UP

内 訳：（国内出展社数：47社 海外出展社数：8社）

出展参加国と地域数：4つの国と地域

■開催内容

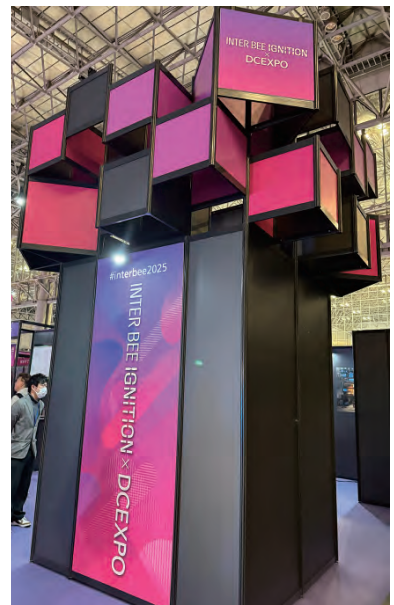
「INTER BEE IGNITION × DCEXPO」は、コンテンツ産業とエンターテインメント産業における新たなビジネス創出と活性化を目指すInter BEE内の特別企画。新たな市場を創出する最先端のコンテンツ技術を体験できる展示のほか、世界の第一線で活躍する専門家、研究者、クリエイターによるコンファレンスが行われた。「DCEXPO（デジタルコンテンツ・エキスポ）」は2008年から毎年開催され2025年で18回目の開催。質の高い技術を、大学や企業の研究室の中で留めることなくコンテンツと組み合わせることで、世界を変えるようなイノベーションを起こすきっかけの場を創っている。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

「AI Street - AI Ignites Creation -」と題し、生成AIによるクリエイティブのデモ展示も多数実施。生成AIによってクリエイティブはどう変わるかをテーマに、映画、音楽、ゲーム・占い、アバター、アニメ、小説・絵画・アート、ファッション、身体表現、人間工学に関する分野でAIクリエイティブ創作に挑む計10の企業や団体によるブースを設けたほか、AIに関連し、映画、ゲーム、アート、CG、広告、中東のAI戦略など、様々な切り口で最新事情を解説するセッションも実施され、立ち見が出るほどの盛況ぶりを見せ、分野を超えて広がる“AIクリエイティブの最前線”に対する注目度の高さを示した。

また、経済産業省がスタートアップの海外展開を支援する「TechBiz」による8ブースの展示や、大学等のコンテンツ・テクノロジーの社会実装を支援する「CTIP」による6ブースのデモにおいても、活発に意見交換やマッチングを行う様子が見られた。

さらに、韓国パビリオンでは日本市場進出を目指す「KOCCA CKL TOKYO」入居企業が幕張メッセにて、映像・ウェブトゥーン・ミュージカル・ARテクノロジーなど多様なジャンルの最新コンテンツや技術を紹介し、日本のコンテンツ、エンターテインメント、舞台制作、スポーツなどの分野で、新たなビジネスパートナーシップと日韓共同企画等の創出を図る有意義な場となった。

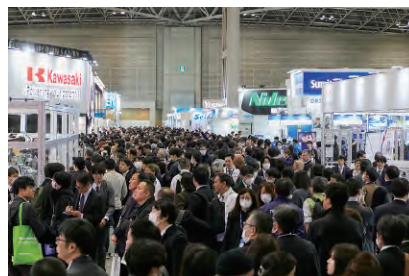


オフィシャルイベント

2025国際ロボット展



会 期：【リアル会場】 2025年12月3日(水)～6日(土) 10:00～17:00
【オンライン会場】2025年11月19日(水)～12月19日(金)
会 場：【リアル会場】東京ビッグサイト 西1～4ホール、東4～8ホール、アトリウム
※12月6日のみ南3ホールを使用
【オンライン会場】オンライン上
主 催：(一社)日本ロボット工業会／(株)日刊工業新聞社
後 援：経済産業省／厚生労働省／農林水産省／国土交通省／総務省／
文部科学省／(一社)日本商工会議所／
(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)／
(独)日本貿易振興機構(JETRO)／(特法)日本放送協会(NHK)
対 象：ロボット・ロボット関連技術
公式サイト URL：<https://irex.nikkan.co.jp>



総来場者数(参加数)：156,110人 ※過去最多
出展社数：673社 ※過去最多
内 訳：(国内出展社数：533社 海外出展社数：140社)
出展参加国と地域数：13の国と地域
ビジネスマッチング
・登録アカウント数：未公表
・商談申込数：相当数
・商談成立数：相当数
プレス社数：116社
内 訳(国内プレス社数：103社 海外プレス社数：13社)



■開催内容

国際ロボット展は1974年の初開催以来、隔年で開催されてきたロボット専門展示会であり、2025年で26回目を迎えた。近年では世界最大規模のロボット専門展として国内外から高く評価され、世界各国のロボット関連企業、研究者、ユーザーが集う2年に一度の国際的な交流の場となっている。

今回は、「ロボティクスがもたらす持続可能な社会」をテーマに開催し、国内外の最先端ロボットをはじめ、AIや要素技術などロボットに関わる高度な技術を一堂に展示した。新規出展の増加により出展者数は過去最多となり、海外出展者数は140社に達したほか、会期中の海外来場者数は10,147人を記録した。

また、ヒューマノイドロボットをはじめとする先進的なロボットの出展が増加し、産業用途から生活・サービス分野に至るまで、最先端のロボット技術が一堂に会する展示内容となった。メインステージでは経済産業省の登壇をはじめ、「ヒューマノイドロボット」「ロボット&AI」などをテーマとしたプログラムを実施した。会期中は多くの国内外メディアが来場し、連日テレビ放送を含む幅広い報道が行われるなど、国際的にも注目を集め、認知と評価の向上につながった。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

新規施策として実施した「iREXリクルート&業界研究フェア」では、出展企業と学生が直接交流する場を創出し、ロボット産業への理解促進と将来の人材育成につなげた。また「癒しCafé」では、ロボットとの自然な対話や触れ合いを通じて、子どもから大人まで幅広い来場者が癒しを体感できる空間を提供し、人と共生するロボットという日本ならではの価値観を訴求した。さらに、土曜日限定企画「つくる☆さわれる国際ロボット展」では、STEM教育やものづくり体験を通じて次世代層への文化的発信を強化した。

加えて、LinkedInを活用した英語での情報発信を強化し、世界最大級のロボットの展示会として、更なる国際的な認知と存在感を高めた。



東京アニメアワードフェスティバル2026



会 期：2026年3月13日（金）～16日（月）
 開催場所：東京・池袋
 会 場：池袋シネマ・ロサ／池袋HUMAXシネマズ／TOHOシネマズ池袋／オトメイトビル6F オトメイトスクエア／
 東京建物 Brillia HALL パークプラザ／としま区民センター／WACCA 池袋
 主 催：東京アニメアワードフェスティバル実行委員会／（一社）日本動画協会
 共 催：東京都
 特別協賛：豊島区
 協 力：アニメーション美術家連盟／CG-ARTS（（公財）画像情報教育振興協会）／日本アニメーション協会／
 （一社）日本アニメーター・演出協会／（一社）日本音声製作者連盟／（協組）日本脚本家連盟
 後 援：（独）国際交流基金／日本アニメーション学会／日本映像学会／（独）日本貿易振興機構／（公社）日本漫画家協会／文化庁／
 （公財）ユニジャパン
 対 象：プログラムによって異なる
 公式サイト URL：<https://animefestival.jp/ja/>
<https://animefestival.jp/en/>

■開催内容

「東京アニメアワードフェスティバル（TAAF）」は、クリエイター、アニメーション関係者、ファンが一体となる日本を代表する国際アニメーション映画祭である。

新たな人材の発掘・育成、アニメーション文化と産業の振興に寄与すること及び、東京の魅力を発信し、東京の観光振興に資することを目的とし、『東京がアニメーションのハブになる』を合言葉に、高いクオリティとオリジナリティに富む世界中の作品を東京で上映し、世界中のアニメーションを愛する人々との交流を図り、クリエイターや観客に刺激と感動を提供し、そしてその感動や刺激を糧にアニメーションの新たな波を東京から世界へ発信する。

TAAFは、アニメーション作品とその制作者に栄誉を与えることで、世界中のアニメーション制作に携わるみなさんに勇気を与えられるようなフェスティバルでありたいと願っている。

日本国内で未興行の世界のアニメーション作品を対象にした「コンペティション部門」、日本国内で発表されたアニメーション作品を対象とした「アニメ オブ ザ イヤー部門」、アニメーション業界に貢献された方々を顕彰し、先人達の歴史、技術、生き様を伝える「アニメ功労部門」を中心とした上映の他に、トークショー、シンポジウム、子ども向けワークショップ等を実施した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・授賞式の会場を、「としま区民センター」から「TOHOシネマズ 池袋」に変更した。



授賞式



アニメ功労部門顕彰記念『地球へ…』
セクション上映&トークショー



『Julian』- 監督が語る制作の舞台裏 -



コンペティション部門 短編アニメーション
スロット1 ノミニー舞台挨拶



こどもワークショップ
「カットアウト人形でアニメーションを作ろう!」

オフィシャルイベント

CP+ (シーピープラス) 2026



会 期：2026年2月26日(木)～3月1日(日) (オンラインイベントのアーカイブ配信は3/31まで)

会 場：パシフィコ横浜およびオンライン

主 催：(一社) カメラ映像機器工業会

後 援：経済産業省／観光庁／神奈川県／横浜市／横浜商工会議所／日本貿易振興機構

特別協力：日本カメラ博物館／日本新聞博物館／横浜美術館

協 力：(公社) 応用物理学会／カメラ記者クラブ／東京写真記者協会／(一社) 電子情報技術産業協会／

日本営業写真機材協会／(一社) 日本オプトメカトロニクス協会／(一社) 日本カメラ財団／(一社) 日本光学会／

(公社) 日本広告写真家協会／(公社) 日本写真家協会／(一社) 日本写真映像用品工業会／(一社) 日本写真学会／

(協組) 日本写真館協会／(公社) 日本写真協会／(一社) 日本写真文化協会／(一社) 日本電子回路工業会／

日本フォトイメージング協会／(一社) 日本望遠鏡工業会／パシフィコ横浜／(公財) 横浜市観光協会 (50音順)

対 象：一般、ビジネス

公式サイト URL：https://www.cpplus.jp/

総来場者数(参加数)：58,329人(前年比104.5%)

出展社数：149社 過去最多

内訳：(国内出展社数：111社 海外出展社数：38社(過去最多) 新規出展社：43社(過去最多))

出展参加国と地域数：12の国と地域

■開催内容

CP+ (シーピープラス) は、最新のカメラ・映像機器や関連技術を核に、写真・映像文化の新しい可能性を提案し、産業活性化を牽引する世界最大級の「総合的カメラ映像機器ショー」である。

CP+2026は、2026年2月26日から3月1日までの4日間、パシフィコ横浜およびオンラインのハイブリッド形式で開催された。パシフィコ横浜では展示ホールに加えアネックスホールを全面活用し、過去最多となる149の企業・団体が出展。来場者数は前年比104.5%の58,329人に達し、前回を上回る盛況となった。

今年のテーマは「Make your world pop. もっと、盛れる。毎日、特別な日も」。杉本博司、都築響一、川内倫子、ホンマタカシといった世界的に高く評価される日本人写真家・表現者を迎え、初心者からプロまでが楽しめる多角的なプログラムを展開。日本が誇る写真・映像文化の層の厚さと、クリエイティブ産業としてのポテンシャルを国内外に発信する場となった。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

・CP+2026における新規取り組み

①若年層カルチャーの深掘りとコミュニティ形成

－若者文化を背景とした自主制作本販売会「ZINES FAIR」を、前年比1.5倍の規模に拡大して実施。また、SNSで普及する「ぬい活(ぬい撮り)」をテーマとした撮影体験企画など、サブカルチャーと技術を融合させたコンテンツを展開した。これらにより、次世代の表現者層を取り込み、新たな需要創出への取り組みを行った。

②来場者利便性の向上とデジタル化の推進

－有料優先入場チケットの導入により多様な来場ニーズに対応。さらに入場登録の完全デジタル化(QRコード対応)を実施し、スムーズな運営とユーザー体験の向上を実現した。



CP+ (シーピープラス) 2026

 **CP+** CAMERA & PHOTO IMAGING SHOW 2026

③次世代クリエイターの育成

－ 学生団体・写真サークルを対象としたアワードを新設。若手クリエイターの作品を表彰し、交流を促進することで、将来のコンテンツ産業を担う人材育成に寄与した。

④スタートアップ企業などの新規出展促進

－ 低料金の小規模ブースを設置することにより、国内外からスタートアップ企業などの新規出展が増えた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

・ 欧米主要メディアとのグローバルパートナーシップ

－ 「PetaPixel」「DPReview」「CineD」といった世界的に影響を持つ欧米の主要映像メディア（全5社）を公式パートナーとして認定。これらメディアによる現地取材と積極的な情報発信を通じて、日本発の最新技術や表現文化がリアルタイムで世界へ情報発信された。

・ 仏「Salon de la Photo」との国際連携

－ フランスの展示会「Salon de la Photo」と連携し、日仏合同写真展を開催。両国の「ZOOMS」受賞作品をCP+会場に集結させるとともに、受賞者によるトークセッションを実施。写真・映像を通じた国際文化交流の活性化と、日本コンテンツの国際的な認知度向上を図った。



パートナーイベント

4-iii コ・フェスタ2025 パートナーイベント

コ・フェスタパートナーイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等でオフィシャルイベントに準じ、コ・フェスタ実行本部が承認したイベントである。本年度は 16 イベントが認定された。そのうち国内は 13 イベント（JVA FESTA は隔年開催の為 2025 年度は未開催）、海外は 3 イベントだった。

-
- | | |
|----|------------------------------------|
| 1 | 第 47 回 ぴあフィルムフェスティバル 2025 |
| 2 | 京都国際マンガ・アニメフェア 2025 |
| 3 | SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 2025（第 22 回） |
| 4 | 第 41 回 ATP 賞テレビグランプリ |
| 5 | 第 50 回 湯布院映画祭 |
| 6 | きものサローネ 2025 |
| 7 | 第 21 回 吉祥寺国際アニメーション映画祭 |
| 8 | 第 17 回 京都ヒストリカ国際映画祭 |
| 9 | MPTE AWARDS 2025 第 78 回表彰式 |
| 10 | 映文連 国際短編映像祭「映文連アワード 2025」 |
| 11 | ヨコハマ・フットボール映画祭 2025 |
| 12 | 第 17 回 コンテンツ東京（CONTENT TOKYO 2025） |
-

海外パートナーイベント

- | | |
|---|---|
| 1 | HYPER JAPAN Festival 2025 |
| 2 | バンコク日本博 2025 |
| 3 | Anime Festival Asia Singapore 2025（AFASG25） |
-

第47回ぴあフィルムフェスティバル2025



会 期：2025年9月6日（土）～20日（土） オンライン配信は10月31日（金）まで
 会 場：国立映画アーカイブ
 主 催：（一社）PFF／（独）国立美術館国立映画アーカイブ／（公財）川喜多記念映画文化財団／（公財）ユニジャパン
 後 援：（特非）映像産業振興機構／（協組）日本映画監督協会
 対 象：一般
 公式サイト URL：https://pff.jp/47th/

総来場者数（参加数）：7,090人／前年比101%
 （リアル参加：4,575人／前年比88%、オンライン視聴：2,515人／前年比126%）
 プレス社数：新聞社：6／通信社：1／雑誌：1／WEB：18／テレビ：2／ラジオ：1

■開催内容

●自主映画コンペティション「PFFアワード2025」

全国から応募された自主映画795本（前年比+103本）の中から選ばれた入選作品22本を各2回ずつ上映、さらに映画祭初日から映画祭終了後の10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、5名の最終審査員がグランプリほか各賞を発表。グランプリに輝いた中里ふく監督の『空回りする直美』をはじめ、合計7作品が受賞した。
 最終審査員：門脇麦（俳優）、関彦彦（プロデューサー）、福永壮志（映画監督）、山内マリコ（作家）、山中瑤子（映画監督）

●ヌーベルバーグ特集 ～映画史的ヌーベルバーグの代表作～ ～私のヌーベルバーグ作品～

ヌーベルバーグ特集は、ゴダールを筆頭とした、現在では“古典”となった名作を上映する「映画史的ヌーベルバーグの代表作」と、その人にとってのヌーベルバーグ体験を告白していただく「私のヌーベルバーグ作品」の2つの企画で展開。後者の企画では、山下敦弘監督、吉田大八監督、山中瑤子監督、ピーター・バラカンら、総勢8名のゲストが私的な映画体験を披露した。

●追悼・篠田正浩監督

「松竹ヌーベルバーグ」を代表する監督で、PFFの審査員などを通して若い監督を支援して下さった篠田正浩監督の『夜叉ヶ池』を上映。現場を知る特撮スタッフが、当時の思い出を語ってくれた。

●私が憧れた女優たち ～梶芽衣子デビュー60周年企画～

2025年にデビュー60年を迎えた女優・梶芽衣子に、いまこそ若者に観てほしいという、憧れの女優たちの4つの名作について語っていただいた。『カサブランカ』『流れる』の上映時は、『まる』の荻上直子監督が聞き手として登壇した。



国立映画アーカイブロビー



PFF アワード受賞監督と最終審査員

第47回ぴあフィルムフェスティバル2025



●世界が驚く日本の8mm映画たち

- ・PFFアーカイブ「自由だぜ！ 80年代PFF入選作品」

PFFがデジタル化している過去の8ミリ入選作品を上映する企画の3年目。今年は『リトル・ウィング』『どてらワルツ'81』『爆BACK』など8作品を上映し、7名の監督が登場。1970～1980年代の8ミリ映画ムーブメントを振り返った。

- ・ハーバード大学・自主映画アーカイブプログラム

日本の8ミリ映画を将来に向けて残すために、アメリカのハーバード大学がデジタル・アーカイブ事業を開始。このコレクションの中から6本の作品を上映。

●第30回PFFプロデュース作品お披露目

最新のPFFプロデュース作品『メイメイ』を完成披露上映。監督の蘇鈺淳（スー・ユチュン）をはじめ、台湾から駆けつけてくれた主演女優ら4名によるトークを実施。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

（一社）PFFと同じく、日本の8ミリ作品のデジタル・アーカイブ化を始めたアメリカのハーバード大学の協力を得て、同大学がデジタル化した作品を6本上映した。あわせて、担当教授であるアレクサンダー・ザルテンが来日し、ゲストとして登壇した。教授と上映作品の監督、制作スタッフ、出演者などとのトークも盛り上がり、国際的な交流や意見交換が活発に行われた。



『爆裂都市_BURST_CITY』の石井聰互（岳龍）監督と
山中瑤子監督、吉田大八監督



2025年にデビュー 60 年を迎えた女優・梶芽衣子



『メイメイ』の蘇鈺淳監督と王渝萱、王渝屏、水間ロン、浅井大智



『MOMENT』の手塚真監督

京都国際マンガ・アニメフェア2025



会 期：2025年9月20日(土)・21日(日)
 会 場：京都市勧業館みやこめっせ／ロームシアター京都 ほか
 主 催：京都国際マンガ・アニメフェア実行委員会／京都市
 共 催：KYOTO CMEX 実行委員会／京都国際マンガミュージアム／
 京都コンピュータ学院・京都情報大学院大学
 後 援：経済産業省／内閣府
 対 象：マンガ・アニメ・ゲームに関する企業・団体など
 公式サイト URL：<https://kyomaf.kyoto/>

総来場者数(参加数)：36,316人
 出展社数：66企業・団体
 内 訳：(国内出展社数：66企業・団体 海外出展社数：0社)
 プレス社数：28社
 内 訳：(国内プレス社数：26社 海外プレス社数：2社)

■開催内容

京都国際マンガ・アニメフェア(以下、「京まふ」という。)は、マンガ・アニメ・ゲームを活用した新たなビジネスの創出支援、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者や外国人をはじめとした新たな観光客の掘り起こし、マンガ・アニメ・ゲーム文化の海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上を目的とした西日本最大規模のマンガ・アニメ・ゲーム等の総合見本市である。

14回目の今回は、「大阪・関西万博の時宜を捉えたインバウンド等の誘客」、「京都府をはじめとした各種団体と連携した更なるコンテンツ産業振興」、「コンテンツ都市としてのブランド向上」、「京まふを通じたクリエイター支援」等を重点取組として実施した。

今年は66の企業・団体が出展し、また、豪華声優等が出演する25のステージプログラムを実施するなど、総来場者は36,316名、オンラインでの配信視聴者数は783,550回と昨年を超える多くの方に楽しんでいただいた。

クリエイター支援では昨年度から実施している「京まふクリエイターズコンテストU25」を今年も開催し、全253作品の応募のうち、優秀作品については京まふ会場に展示したほか、「京まふ2025」のメインビジュアルの制作には昨年度的最優秀賞受賞者である桃奈さくらさんを起用した。

また、マンガ出版社の編集部を京都に招き、マンガ家志望者が自分の作品を持ち込むことができる「マンガ出張編集部」は、11月15日、16日に京都国際マンガミュージアムで実施し、54の編集部、213名のマンガ家志望者にご参加いただいた。同じくクリエイター支援を目的とする「京都クリエイティブ企業キャリアフォーラム」(コンテンツ関連の合同就職説明会)は令和8年3月1日に京都コンピュータ学院京都駅前校で開催。208名にお越しいただいた。

産業振興の面ではアニメと異業種のコラボレーションを表彰する「京都アニものづくりアワード」を開催し、京まふステージにて授賞式を実施するとともに、京都アニものづくりアワード参加企業と京まふの出展者や行政関係者の交流会を実施する等、コンテンツビジネスの活性化にも取り組んだ。

日本のマンガ・アニメ・ゲームといったコンテンツは海外でも人気を集めており、今後もインバウンド向けの施策を充実させるなど、これまで以上に国際的な取り組みを模索するとともに、多角的な施策で幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるイベントとしたい。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

会場の周辺に位置する京都市京セラ美術館や京都市動物園、琵琶湖疏水記念館などの各施設を撮影スポットとして、日本全国で開催されているコスプレイベント「acosta! (アコスタ)」と併催し、多くのコスプレイヤーに参加いただいたほか、京まふ会場内京都伝統産業ミュージアム等にファミリーコーナーを設置し、人気キャラクターによる着ぐるみグリーティングに加え、親子で楽しめる伝統産業やアニメ・CG制作体験ワークショップ等を展開した。同ミュージアムには、2日間で6,927人が入場した。

また、コンテンツ産業と地域経済の活性化の好循環を目指す地域一体となった取組として内閣府が公募する「コンテンツ地方創生拠点」に「京都国際マンガ・アニメフェアを中心としたコンテンツ産業振興プロジェクト」が選定された。



会場内の様子



クリエイターズブース



京まふショップ



メッセージボード



ファミリーコーナー



伝統産業ワークショップ

パートナーイベント

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2025(第22回)

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2025 SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2025

会 期：2025年7月18日(金)～26日(土)

会 場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール／多目的ホールほか(埼玉県川口市)

主 催：埼玉県／川口市／川口商工会議所／SKIPシティ国際映画祭実行委員会

後 援：総務省／外務省／経済産業省／文化庁／(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(公財)ユニジャパン／(一社)外国映画輸入配給協会／(公社)映像文化製作者連盟／(一社)日本映画テレビ技術協会／
(一社)日本映画テレビプロデューサー協会／(協組)日本映画監督協会／(協組)日本映画撮影監督協会／
(協組)日本映画製作者協会／全国興行生活衛生同業組合連合会／生活衛生同業組合埼玉県映画協会／
(一財)デジタルコンテンツ協会／(特非)映像産業振興機構／NHK／エフエムナックファイブ／埼玉新聞社／
駐日イタリア大使館／ポーランド広報文化センター／駐日アルバニア共和国大使館／オランダ王国大使館

対 象：映画製作者、映画ファン、一般県民・市民、デジタルネイティブ世代

公式サイト URL：https://www.skipcity-dcf.jp/

総来場者数(参加数)：11,192人

出展参加国と地域：日本、ポーランド、ジョージア、オランダ、アルバニア、イタリア、ルクセンブルク、カナダ、フランス、アメリカ

■開催内容

「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2025」は、デジタルシネマの普及と若手映像クリエイターの発掘・育成を目的として開催された第22回目の映画祭である。

埼玉県川口市のSKIPシティを拠点に、9日間にわたりコンペティション上映、特集上映、企画展、関連イベントなどを実施した。

中核となるコンペティション部門では、国内から応募された271作品の中から厳選された13作品(長編・短編)を上映し、審査員による審査および観客投票を経て各賞を授与した。最優秀作品賞には、茂木毅流・長澤太一共同監督のアニメーション作品『水底のミメシス』が選出された。また、若手監督への支援として、SKIPシティアワード受賞者には次回作制作のための施設・機材利用権が提供されるなど、クリエイター・ファーストの姿勢を貫いている。

総来場者数は11,192人を記録し、昨年対比158.8%と大幅な増加を達成した。これは、上映プログラムの充実に加え、後述する体験型展示や関連イベントが多くの来場者を惹きつけた結果である。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回の映画祭では、急速に進化する映像技術と視聴環境の変化を捉えた意欲的な企画を多数展開した。

第一に、スマートフォンの普及に対応した「縦型映画シアター」の新設である。会場に巨大な縦型スクリーンを設置し、上田慎一郎監督作品やTikTok映画祭受賞作などを上映。デジタルネイティブ世代に親和性の高い新しい映像体験を提供し、連日多くの観客で賑わった。

第二に、生成AI技術に焦点を当てた特集「AI映画の現在」を実施した。全編AIで生成された短編映画『ラストドリーム』等の上映に加え、制作過程や著作権等の課題を議論するトークイベントを開催し、映画制作におけるAIの可能性と課題を提示した。

第三に、企画展「デジタルネイティブが視る映像のカタチ」を開催し、VRドキュメンタリー、XR映画、8K映像、AIによるインタラクティブコンテンツなど、最先端技術を用いた多様な映像表現を紹介した。

これらの取り組みにより、本映画祭は単なる作品鑑賞の場にとどまらず、映像の未来を「体験」し「考察」する場として機能し、幅広い層の集客に成功した。



オープニングセレモニー



縦型スクリーン



企画展の体験の様子



AI映画の現在のトークショーの様子



AI映画の現在終了後のホールロビー



表彰式

第41回ATP賞テレビグランプリ



会 期：2025年7月24日（木）
 会 場：東京プリンスホテル 「プロビデンスホール」
 主 催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟
 後 援：総務省／経済産業省／日本放送協会／（一社）日本民間放送連盟
 公式サイト URL：https://www.atp.or.jp/awards/atpaward/award_041.php

総来場者数（参加数）：334人
 プレス社数：13社

■開催内容

『ATP賞テレビグランプリ』は、日本の映像コンテンツ産業の重要な担い手となっている製作会社の社会的機能を高め、そこで働く制作スタッフ一人ひとりの情熱や気概に応えるために、創り手である製作会社のプロデューサーやディレクターが自ら審査委員となって優れた作品を選ぶ、日本で唯一の賞として1984年に創設された。ドキュメンタリー部門、情報・バラエティ部門、ドラマ部門の3つのジャンルを基幹部門として作品を募集し、受賞式にて最高賞のグランプリを決定する。2025年度の『第41回ATP賞テレビグランプリ』は、7月24日（木）東京プリンスホテルにて開催した。今年の部門賞応募総数は166本、栄えあるグランプリは、3部門の最優秀賞の中からATP会員社の投票によって選ばれ、NHKスペシャル 法医学者たちの告白（ビジュアルオフィス・善、NHKエデュケーショナル／NHK総合）に輝いた。新人賞の応募総数は29名。優秀新人賞4名の中から、会員社の投票によって久保田徹（フリーランス）BSスペシャル 境界の抵抗者たち ～ミャンマーを追われた映像作家の記録～（＼、Film & Media、NHKエンタープライズ／NHK BS）が選ばれた。

各部門の応募数：ドキュメンタリー48本、情報・バラエティ51本、ドラマ38本、新人賞29本 合計166本

主な受賞作品

【最優秀賞】

ドキュメンタリー部門

NHKスペシャル 法医学者たちの告白（ビジュアルオフィス・善、NHKエデュケーショナル／NHK総合）

情報・バラエティ部門

ステータス #2 メシア ～究極のストラディバリウス～（＼、Film & Media、NHKエデュケーショナル／NHK総合）

ドラマ部門

ブラチナイト木曜ドラマ クラスメイトの女子、全員好きでした（テレパック／読売テレビ）

【優秀新人賞】

鳥居 稔太（テレビマンユニオン）

ザ・ノンフィクション ほめる人とほめられる人～褒めますおじさん 令和の路上物語～（テレビマンユニオン／フジテレビ）

斉藤 彩香（テレビマンユニオン）

アナザー・ストーリーズ 運命の分岐点 コザ騒動 燃えさかる炎の行方（テレビマンユニオン／NHK BS）

久保田 徹（フリーランス）

BSスペシャル 境界の抵抗者たち ～ミャンマーを追われた映像作家の記録～（＼、Film & Media、NHKエンタープライズ／NHK BS）

天宮 沙恵子（TBSスパークル） ドラマストリーム 地獄の果てまでつれていく（TBSスパークル／TBS、Netflix）



福浦理事長挨拶表彰



グランプリ受賞者への贈賞シーン

第41回ATP賞テレビグランプリ



【総務大臣賞】

NHKスペシャル 臨界世界－ON THE EDGE－中国のハゲタカたち（テムジン、NHKエデュケーショナル／NHK 総合）

【特別賞】

関口 宏（司会者、タレント、俳優、ニュースキャスター）

「くいしん坊!万才」制作チーム

NHK 放送100年プロジェクト

■ 2024 年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・ 放送100年の節目を受け、式典の冒頭、放送100年の歴史をまとめた映像を流し、歴史を振り返った。また、NHKが2022年から展開しているキャンペーン活動「放送100年プロジェクト」に対して功績を称え、特別賞を贈呈した。
- ・ 2025年にパートナーシップを締結した「韓国国際ストリーミングフェスティバル」よりキム・ボックン執行委員長をお招きし、ATP賞のグランプリ投票や受賞式にて祝辞を頂戴し相互の交流を深めた。



グランプリ受賞者



最優秀新人賞受賞者



総務大臣賞受賞者

第50回湯布院映画祭



会 期：2025年8月21日（木）～24日（日）
 会 場：ゆふいんラックホール
 主 催：湯布院映画祭実行委員会
 後 援：由布市／由布市商工会／大分県興行生活衛生同業組合／大分合同新聞社／NHK大分放送局／OBS大分放送／
 TOSテレビ大分／OAB大分朝日放送／エフエム大分／J：COM大分ケーブルテレコム／ゆふいんラヂオ局
 対 象：全国の映画ファン
 公式サイト URL：https://yufuincfes.org/

総来場者数（参加数）：3,407人
 プレス社数：5社
 内訳（国内プレス社数：5社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

本映画祭は第50回を迎える。節目の今回は「俳優・三浦友和」を特集する。三浦氏は1970年代にデビューし、その芸歴は本映画祭の歴史と重なり、日本映画全盛時代の掉尾にデビューし、その後の日本映画の栄枯盛衰、作品性の変遷と常に併走してきた。青春スター、アイドルとしてデビューし、日本を代表する若手俳優として大作に参加しつつ、相米慎二・大林宣彦といった当時気鋭の監督と組んできた。そうして磨いたスキルを諏訪敦彦・山下敦弘など当時新進の監督作品で発揮、その活躍は入江悠・三宅唱など次代の日本映画の担う監督との仕事にまで綿々と生かされている。本映画祭でも「台風クラブ」（10回）「野ゆき山ゆき海ゆき」（11回）「空がこんなに青いわけがない」（17回）「M/OTHER」（24回）等、キャリアの代表作主演作を公開に先だって特別上映し、「黄金のパートナー」（20回）「春琴抄」（39回）「泥だらけの純情」（49回）など青春スター当時の作品を回顧上映してきた。今回は、映画俳優三浦友和を特集することで、この50年の日本映画史を俯瞰し、これからの日本映画への展望をゲスト、参加者とともに探っていく。



■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

配信作品の広がりなど視聴状況、Metooやハラスメント問題などモラルの変遷、日本社会における映画作品の位置づけも大きな変革を迎えている。これまでもテレビ文化の台頭、映画会社システムの崩壊、レンタルビデオ時代の到来、ミニシアター時代を経てのシネコンの登場など、日本映画を取り巻く状況は多彩に変遷してきた。その大きな起伏を体感しながら常にスターとして存在し続けている三浦友和氏を迎えることで、日本における映画芸術の可能性を見出す。また湯布院映画祭は決して大きくない街に、日本を代表する才能を集めて大都市ではできない、制作者と観客の真つすぐな討論を重ねてきた。50年目の節目となる今回、全国的かつ全世代的に著名な映画俳優である同氏を招き、一般の参加者とスターとの交歓を生んでいく。そして「映画館のない町」由布市湯布院で開催される世界的にも稀な日本最古かつ現役の映画祭が持つ日本映画熱を発信していくことで、日本映画の伝統を伝え、日本の映像文化に対して、一地方から不断な貢献をしていく。



パートナーイベント

きものサローネ2025



会 期：2025年11月1日（土）・2日（日）

会 場：国際フォーラムE2ホール

主 催：きものサローネ実行委員会

協 賛：青山きもの学院／京ろまんグループホールディングス／すずのき／西陣織工業組合／(株)シーボン／サントリーウェルネス(株)

後 援：京都府／京都織物卸商業組合／丹後織物工業組合／東京織物卸商業組合／名古屋織物卸商業組合／西陣織工業組合／博多織工業組合／本場大島紬織物協同組合

対 象：一般

公式サイト URL：<https://www.kimono-salone.com/2025/>

総来場者数（参加数）：10,000人

出展社数：99社

内 訳：（国内出展社数：99社 海外出展社数：0社）

■開催内容

今年も“「アタラシイ」に逢いにいく”を基本コンセプトに、リアルな会場でのイベントだけでなく、SNS・YouTube動画・ライブ配信など、さまざまな新しいツールを利用し日本最大級の着物イベント「きものサローネ2025」を発信した。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

着物を仕立てる和裁士の職人技の実演と和裁士の方々のトークショーで見て聞いて触れてみる体験コーナーを充実させた。



第21回 吉祥寺国際アニメーション映画祭

会 期：2026年2月20日（金）～22日（日）
 会 場：武蔵野公会堂
 主 催：吉祥寺活性化協議会／吉祥寺国際アニメーション映画祭実行委員会
 後 援：武蔵野市／東京都／経済産業省関東経済産業局
 協 賛：武蔵野商工会議所／武蔵野市商店会連合会／（一財）武蔵野市開発公社
 公式サイト URL：https://www.kichifes.jp/animation/

総来場者数（参加数）：延べ1,119人
 プレス社数：2社
 内訳（国内プレス社数：2社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

スペシャル上映会・トークショー『ひゃくえむ。』ができるまで 令和8年2月20日（金）
 第4回グランプリ（『福来町、トンネル路地の男』）、第5回ギャグアニメ部門グランプリ（『嘆きのアイスクランディー』）を受賞した岩井澤健治監督が手掛け大ヒットを記録した『ひゃくえむ。』をフィーチャーし、本編上映とキャラクターデザインの小嶋慶祐さん、美術監督の山口溪観薫さん、そして岩井澤監督ご本人からなるメイン製作陣を迎え、メイキング解説を中心にトークを展開した。聞き手は津堅信之さん（アニメーション史研究家／本映画祭審査委員）。
 入場者（有料） 300人

ストップモーションアニメーション特集上映

「AI時代とストップモーションアニメーション」目まぐるしく進化するAIの時代に、ストップモーションとは？ 令和8年2月21日（土）
 本映画祭受賞作家の吉田チロウ、中村匠吾、池田夏乃、新海大吾の若手作家の皆さんを迎え、本映画祭審査委員の中村誠監督を囲んで、ストップモーションアニメーションの最前線について語った。出演者の受賞作品と、今だから見てほしい作品としてセレクトしたアードマン作品『ひつじのショーン〜バック・トゥ・ザ・ホーム〜』を上映した。
 【プログラムA】13:30 『ひつじのショーン〜バック・トゥ・ザ・ホーム〜』（2015年 85分）上映
 【プログラムB】16:00 歴代ストップモーションアニメーション受賞作選、全12本上映
 【プログラムC】17:30 トークセッション「AI時代とストップモーションアニメーション」
 中村誠（アニメーション監督／本映画祭審査委員）、吉田チロウ（第14回 優秀賞）、中村匠吾（第16回 ストップモーション部門グランプリ）、池田夏乃（第18回 審査委員特別賞）、新海大吾（第19回 STUDIO 4℃賞）
 入場者（無料） 146人

ワークショップ「プラ板でコマ撮りアニメを作ろう！」

プラ板に好きな絵を描いて、見里監督の新番組『キャンディーカリエス』のようなキャンディー風アニメーションをつくった。
 12:30、14:00、15:00の3回開催（1回約50分）。各回先着8名（付き添い可）
 参加者（無料） 33人（付き添い込）



メインの立て看板



ひゃくえむ。トークショー岩井澤監督



AI時代とストップモーションアニメーション

パートナーイベント

第21回 吉祥寺国際アニメーション映画祭

吉祥寺アニメーション映画祭 本選・表彰式 令和8年2月22日(日)

応募総数61作品の中から16作品がノミネート。竹熊健太郎審査委員長のほか、吉祥寺周辺のアニメ制作会社が審査。今年はスペシャルゲストに出淵裕氏も登壇。

入場者(無料) 193人

審査委員長: 竹熊 健太郎

審査委員: 津堅 信之、青木 純、白石 慶子、中村 誠、森本 晃司(ゲスト審査委員)

◎各賞受賞者/作品名

【グランプリ】	劉 人銘/『沈没』
【優秀賞】	福永 鈴李果/『春蕾』
【ギャグアニメ賞】	該当なし
【ストップモーションアニメーション賞】	スティープン レドモンド/『Love & Peace & Beaver』
【審査員特別賞】	はるお さき/『お化け猫のレシピ』
【審査員特別賞】	笹谷 周生/『故郷がえり』
【スタジオ4℃賞】	笹谷 周生/『故郷がえり』
【コアミックス賞】	関根 七香/『明日の天気は』
【プロダクション・アイジー賞】	スティープン レドモンド/『Love & Peace & Beaver』
【スタジオディーン賞】	根間 笑花/『サロンドボーダー』
【ジブリ美術館賞】	関根 七香/『明日の天気は』

■ 2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

劇場アニメ『ひゃくえむ。』フォトスポットキャンペーン 令和8年2月15日(日)～22日(日)

『ひゃくえむ。』の主要キャラクターパネルを吉祥寺の大型店内6カ所に設置。SNSに6カ所のうち2カ所以上をパネル写真とともに、#ひゃくえむ。#KIAFFをつけて投稿し、2/20(金)～22(日)に、武蔵野公会堂にてその投稿を見せると、先着で劇場アニメ『ひゃくえむ。』オリジナルステッカーをプレゼント。さらに、抽選で5名様に岩井澤監督のサイン入りポスターが当たった。ステッカー配布枚数 447枚

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

サポートイベント

○武蔵野市立吉祥寺図書館「未来の巨匠はここに！2026」 令和8年2月19日(木)～26日(木)

デジタルサイネージによる前年度受賞作品上映とアニメーション関連図書を展示。

○ブックスルーエ ①令和8年1月22日(木)～24日(土)、②2月上旬～2月22日(日)

①1月22日発売の西原理恵子氏の新刊「ダーリンは80歳」の発売を記念して、同氏のサイン本を販売。

②キン・シオタニ特集展示を実施した。



グランプリ表彰 - 劉さん



受賞者、ノミネーター&審査委員集合写真

第17回京都ヒストリカ国際映画祭



会 期：2025年12月2日（火）～7日（日）
 会 場：京都文化博物館 フィルムシアター、6F和室／オンライン
 主 催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会
 （京都府／京都文化博物館／東映(株)京都撮影所／(株)松竹撮影所／
 (株)東映京都スタジオ／巖本金属(株)／(株)ディレクターズ・ユニブ／
 立命館大学／(株)Skeleton Crew Studio)／
 (一社) 京都ヒストリカ
 共 催：KYOTO CMEX実行委員会
 後 援：(一社) 日本映画製作者連盟／(一社) 外国映画輸入配給協会／
 (一社) 日本映画テレビ技術協会／(株)エフエム京都
 対 象：一般
 公式サイト：https://historica-kyoto.com/

総来場者数（参加数）：2,201人

■開催内容

京都ヒストリカ国際映画祭、通称「HISTORICA」・「KHIFF」は、ジャンル映画祭として世界でただひとつ「歴史」をテーマにした国際映画祭である。今年度のヒストリカの公式プログラムは、太秦100年と称して、4Kデジタル修復版『雄呂血』(活弁・伴奏付き)に始まり、ジャパンプレミアを含む海外新作を4作品、日本作品の新旧6作品を上映。他にもヴェネチア国際映画祭・ボローニャ復元映画祭や京都映画企画市と連携したプログラムなど、全16作品を上映した。イタリア、ポルトガルなど海外からのゲストを含め16名のゲストが来場した。

一昨年からスタートした週末の2日間に開催するカンファレンスイベント「ヒストリカお座敷」は、13セッション24名の登壇者が来場した。展示エリアではVR映画の体験や片渕須直監督の制作中の新作の展示を実施。引き続き好評を得ているYouTube Liveを活用したオンライントーク企画「夜のヒストリカ」も継続して配信した。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

新しい取り組みとして、京都府と京都市が連携し、12月を「京都映画月間」として打ち出し、京都ヒストリカ国際映画祭や京都市が主催している京都映画賞、その他に京まちなか映画祭、京都国際学生映画祭が共同広報を展開した。また「ヒストリカお座敷」では、京都映画賞が撮影監督の石原興さんを招いたトークイベント、京都国際学生映画祭が山口淳太監督を招いたトークイベントを実施するなど、企画面での連携も図ることができた。



パートナーイベント

MPTE AWARDS 2025 第78回表彰式



会 期：2025年10月28日（火）

会 場：時事通信ホール

主 催：（一社）日本映画テレビ技術協会

後 援：経済産業省／（一社）映画産業団体連合会／（一社）日本映画製作者連盟／（公財）ユニジャパン／
（公社）映像文化製作者連盟／（一社）外国映画輸入配給協会／全国興行生活衛生同業組合連合会／
（特非）映像産業振興機構／（一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本アド・コンテンツ制作協会／
（一社）日本ポストプロダクション協会／NHK／（一社）日本民間放送連盟／（一社）全日本テレビ番組製作社連盟／
（協組）日本映画撮影監督協会／（協組）日本映画・テレビ照明協会／（協組）日本映画・テレビ美術監督協会／
（協組）日本映画・テレビ録音協会／（協組）日本映画・テレビ編集協会／（特非）日本ビデオコミュニケーション協会
（順不同敬称略）

協 賛：ネットアップ（同）／（株）NHKテクノロジー／（株）TBSアクト／東映（株）／（株）ナックイメージテクノロジー／（株）放送技術社／
朝日放送テレビ（株）／アストロデザイン（株）／（株）アップサイド／池上通信機（株）／伊藤忠ケーブルシステム（株）／
（株）IMAGICA エンタテインメントメディアサービス／（株）ウエストワン／（株）エキスプレス／NHK報道局／
NHKメディア技術局／（株）NHKアート／（株）オオトモエンジニアリング／（株）角川大映スタジオ／関西テレビ放送（株）／
（株）関西東通／（株）共同エディット／（株）小輝日文／国際放映（株）／（株）三和映材社／松竹（株）／（株）松竹映像センター／
ソニープロテク／サポート（株）／ソニーマーケティング（株）／（株）千代田ビデオ／（株）TBSテレビ／（株）テイクシステムズ／
（株）テレビ朝日／テレビ大阪（株）／（株）テレビ東京／東映アニメーション（株）／東映ラボ・テック（株）／
（株）東京サウンド・プロダクション／東宝（株）／Dolby Japan（株）／日活（株）／（株）日テレ・テクニカル・リソース／
日本大学芸術学部／日本テレビ放送網（株）／（一社）日本ポストプロダクション協会／（株）ニューテレス／（株）NVC／
（株）バスク／ビジュアル・グラフィックス（株）／（株）フォトロン／（株）フジテレビジョン／（株）フジ・メディア・テクノロジー／
（株）フレックス／（株）朋栄／三友（株）／（株）WOWOW（順不同敬称略）

対 象：映画テレビ技術に関連する技術者及び研究者

公式サイト URL：<https://mpte.jp/>

総来場者数（参加数）：114人

■開催内容

1947年の創立以来、制作現場で技術に携わっておられる方々を表彰する日本で唯一の賞として、映像制作技術の進化と制作意欲の向上を目的に、長年実施しているMPTE AWARDS。毎年、該当年度の応募を募集し、ジャンルごとの技術者・総勢約100名を審査員に迎え、受賞を決定している。

2025年は、「第78回技術開発賞」、「第78回映像技術賞」、「第43回青い翼大賞（学生作品の映像技術賞）」、「第28回日本映画テレビ技術大賞（経済産業大臣賞）」の授与を行った。開発賞は現場開発分野からの応募が多く、AIの革新的発展が反映された実績が目立った。技術賞も、撮影・照明・録音・美術・編集・CG各分野の表彰を行った。

協会創立と時を同じくして始まったAWARDSは、78年目を迎えた。製作環境は急速に変化し続けているが、いつの時代も映像を創るのは人＝技術者の皆様である。この先も、次世代の技術者陣の挑戦と活躍を支え、映像業界全体の発展に繋がる存在であり続けられるよう注力していく。



映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2025」



会 期：2025年11月26日（水）～28日（金）
 会 場：表彰式：国立新美術館講堂 上映会：新文芸坐
 主 催：（公社）映像文化製作者連盟
 後 援：文部科学省／経済産業省／東京都／（特非）映像産業振興機構／
 （一社）全国地域映像団体協議会／（一社）日本映画テレビ技術協会／
 （一社）日本アド・コンテンツ制作協会／（一社）日本ポストプロダクション協会／
 日本映画撮影監督協会／日本映画テレビ照明協会／
 （一社）デジタルコンテンツ協会／（株）毎日新聞社／（株）日本経済新聞社／
 （株）朝日新聞社／（株）読売新聞東京本社／（株）映像新聞社／（有）ユニ通信社
 対 象：一般、学生、映像制作関係者
 公式サイト URL：<http://www.eibunren.or.jp/award2025/index.html>



グランプリ表彰風景

総来場者数（参加数）：約1,100人 ※ライブ配信視聴者含む
 プレス社数：3社
 内訳：（国内プレス社数：3社 海外プレス社数： 社）



上映会場（トークセッション風景）

■開催内容

19回目を迎えた、わが国唯一の産業・文化関連の短編映像祭「映文連アワード2025」表彰式は、11月26日（水）午後1時30分から国立新美術館講堂において開催し、最優秀作品賞（グランプリ）を始め、35作品と1名に賞状とトロフィーを授与した。

「映文連アワード2025」受賞作品上映会は、27日（木）～28日（金）に池袋・新文芸坐において開催し、全受賞作品36本を6プログラム（「素晴らしき自然・人々・文化」、「映像自由区_若手監督の映像」、「映像自由区_コーポレート映像」、「社会と未来を考える」、「地方こそフロンティア」、「自分らしく生きる」）に分けて上映。トークセッションも2回開催。

27日夜は、「International Corporate Film Showing 2025」を開催し、World Media Festival、Cannes Corporate Media & TV Awards、US International Awards等の受賞映像18作品を上映した。プロデューサー等関係者のビデオメッセージ等を数本上映したことや、各種映画祭で審査委員を務める木村昭彦副会長の解説付きで、充実した内容となった。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

前回に続き、第38回東京国際映画祭提携企画として実施。

また、コロナ禍ではじめて表彰式の模様を、日経チャンネル（<https://channel.nikkei.co.jp/>）で取材してもらい、ライブ配信する企画を引き続き実施した。今後も当面アーカイブをしてもらい、視聴機会及び認知向上を図る。

併せて、コロナ禍では5年間にわたり未開催だった受賞者懇親会を昨年に引き続き実施した。受賞者同士や審査委員との交流を通して、この数年間はあまり見られなかったかもしれない関係の深まりが垣間見えた。



受賞者集合写真



受賞者集合写真



受賞者集合写真

パートナーイベント

ヨコハマ・フットボール映画祭2025

ヨコハマ・フットボール映画祭

会 期：2025年10月11日（土）・12日（日）

会 場：横浜市港北区民文化センター ミズキーホール 音楽ルーム ギャラリー

主 催：（特非）横浜スポーツコミュニケーションズ／ヨコハマ・フットボール映画祭実行委員会

後 援：（公社）日本サッカー協会／Jリーグ／（一社）神奈川県サッカー協会／チェコ大使館／
チェコ文化センター／スペイン大使館／ドイツ連邦共和国大使館／
台北駐日経済文化代表処横浜分処／（一社）横浜港振興協会／港北区商店街連合会／
綱島商店街連合会／横浜市教育委員会

対 象：映画ファン、サッカーファン

公式サイト URL：http://yfff.org/yfff2025/



■開催内容

1. 上映プログラムと日本初公開作品

本映画祭では、サッカーを題材にした映画6作品の上映と、多角的に競技を楽しむ7つのトークプログラムを実施した。また、多様なサッカーアイテムを展示する「フットボールエキスポ」には5団体が出展した。

特筆すべきは、2つの日本初上映作品である。スペインリーグで活躍するアフリカ移民2世の兄弟のアイデンティティに迫る『ロス・ウィリアムス 〜イニャキとニコ〜』、そして台湾の少数民族の中学サッカー部の合宿生活に密着した『マイフットボール サマー 奇蹟の夏』を上映し、世界のサッカー文化の多様性を紹介した。

また、自閉症の少年と父が自分たちの推しチームを探す旅を描いた感動作『ぼくとパパ、約束の週末』**の上映では、本作のモデルとなったドイツ人父子とのオンラインQ&Aを敢行した。このセッションを通じ、サッカー界におけるインクルーシブ性の重要性について観客と共に理解を深める貴重な機会となった。

このほか、『ベップ・グアルディオラのFCバルセロナ』『スタディオ』『国際審判員 カルテットのレフェリング』など、競技の裏側に光を当てる作品群が観客の知的好奇心を大いに刺激した。

2. トークイベントと交流の場

トークイベントでは、フィリップ・トルシエ氏によるトークショーをはじめ、元日本代表の久保竜彦氏とお笑いコンビ・カカロニ、さらに審判と選手という豪華な顔合わせによるプログラムを展開した。

Vlogを発信するサポーターによる制作ノウハウの共有や、クラブスタッフによる運営の裏話、誰もが楽しめるサッカーの在り方を議論するプログラムなど、幅広いトピックが扱われた。また、昨年好評を博したYouTuberとファンの交流イベントも継続して実施し、コミュニティの活性化を図った。



3. フットボールエキスポと地域連携

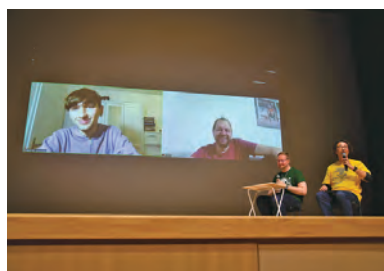
展示エリアの「フットボールエキスポ」では、自作のサッカーモデルカーや書籍、テーブルフットボール、古着ユニフォームなどが並び、日常における多様なサッカーの楽しみ方が提示された。

さらに、2026年11月に神奈川で開催予定の「精神障がい者フットサル（ソーシャルフットボール）全国大会」に向け、有志による告知活動も行われた。映画祭という枠組みを超え、社会におけるサッカーの役割を再確認する場となった。



■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回より横浜市港北区民文化センター ミズキーホールに会場を移し、都心からのアクセス向上を図った。運営面では、港北区商店街連合会および綱島商店街連合会の後援を得るとともに、地元商店街からスタッフ用弁当の紹介を受けるなど、地域社会との緊密な連携を具現化した。



第17回 コンテンツ東京 (CONTENT TOKYO 2025)

第17回 **CONTENT**
TOKYO コンテンツ 東京

会 期：2025年7月2日(水)～4日(金) 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト(西展示棟)

主 催：RX Japan (同) ※2026年1月1日より法人格変更

後 援：(特非)映像産業振興機構／(一社)キャラクターブランド・ライセンス協会／(一社)Cip協議会／
(一社)全国地域映像団体協議会／(一社)日本アド・コンテンツ制作協会／(一社)日本映画テレビ技術協会／
(公社)日本広告制作協会／(一社)日本動画協会／(公社)日本パッケージ協会

対 象：コンテンツ制作、映像・CG制作、広告クリエイティブ・マーケティング、ブランディング、権利、IT、イマーシブ技術
などの関係者(ビジネス来場者)

公式サイト URL：<https://www.content-tokyo.jp/>

総来場者数(参加数)：38,840人(同時開催展を含む)

出展社数：842社(同時開催展を含む)

■開催内容

本展はコンテンツビジネスを支える要素を網羅する国際総合展である。2025年は「ライセンシング」「映像・CG制作」「クリエイター」「広告クリエイティブ・マーケティング」「コミュニケーションデザイン」「イマーシブテクノロジー」の6つの専門展で構成し、新設の特設エリア「CONTENT Hub」を設けた。会期中はコンテンツ活用の入口から高度な制作・運用までを一気通貫で比較検討できる環境を提供し、最新の生成AIや没入型体験技術、ブランディング／マーケティング支援サービスが多数集結した。無料カンファレンスでは業界トップによる講演を通じて、コンテンツ活用の成功事例や次世代の潮流を提示した。来場者はメディア・エンターテインメント、企業の宣伝・マーケティング部門、開発・DX推進部門など意思決定層を含むビジネス関係者が中心であり、活発な商談とネットワーキングが行われた。東京ビッグサイト西展示棟において、コンテンツ制作から権利、IT、体験設計までをつなぐハブとして機能し、エンターテインメント産業の活性化と企業のブランド価値向上に資する具体的なソリューションを提示した。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

コンテンツ総合ソリューションを展開する企業が一堂に集まる「CONTENT Hub」を新設。



海外パートナーイベント

HYPER JAPAN Festival 2025



会 期：2025年7月18日（金）～20日（日）
会 場：OLYMPIA EVENTS（英国ロンドン）
主 催：Cross Media Ltd.
後 援：在英国日本国大使館／（独）日本貿易振興機構（JETRO）／（独）国際観光振興機構（JNTO）／（独）国際交流基金／
（一財）自治体国際化協（CLAIR）／（一財）日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）／NPO法人映像産業振興機構（VIPO）／
（一社）日本動画協会（AJA）／（一財）デジタルコンテンツ協会（DCAJ）／日本政府クールジャパン（CJPF）
対 象：主に日本文化・日本食・ポップカルチャーに関心を有する英国在住者
公式サイト URL：<https://hyperjapan.co.uk/festival-2025/>

総来場者数（参加数）：53,000人
出展社数：466社
内 訳：（国内出展社数：16社 海外出展社数：450社）
出展参加国と地域：日本および英国を中心に、欧州地域からも参加
プレス社数：69社
内 訳（国内プレス社数：7社 海外プレス社数：62社）

■開催内容

HYPER JAPAN Festival 2025は、日本の「今」を多角的に発信することを目的として、英国において開催された日本文化総合イベントであり、今回で21回目の開催を迎えた。日本食、伝統文化、ポップカルチャー、アート、観光、ライフスタイル分野に至るまで、幅広い分野の日本の魅力を現地に届ける場として、長年にわたり高い評価を得ている。

近年、英国をはじめとする欧州地域では、日本文化および日本食への関心が一層高まっており、訪日経験のない層を含め、「実際に体験できる日本」への需要が拡大している。本イベントでは、こうした関心を背景に、日本から多数の出展企業・団体およびアーティストを招聘し、英国国内では入手が困難な商品や食、文化体験を提供するとともに、日本の第一線で活躍するアーティストによるパフォーマンスや交流機会を創出した。会場では、伝統工芸や地域産品の展示・販売、日本食の試食・販売、ワークショップ、ステージプログラムなどが実施され、日本文化の多様性と現代性を包括的に発信した。特に、日本への旅行を未経験の来場者に対しては、五感を通じて日本を身近に感じられる体験機会となり、将来的な訪日意欲の喚起や日本ブランドへの理解促進につながる内容となった。HYPER JAPAN Festival 2025は、単なる展示販売イベントにとどまらず、日本文化の理解深化、日英間の文化交流の促進、日本関連産業の海外展開支援という観点からも意義深い取り組みであり、英国における対日関心のさらなる拡大に寄与するものとなった。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

来場者目標を50,000名に設定し、日本文化に関心を持つ英国在住者への訴求を強化した結果、目標を達成した。



バンコク日本博2025

NIPPON
HAKU
BANGKOK
2025

会 期：2025年8月29日（金）～31日（日）
 会 場：クイーンシリキット国際会議場
 主 催：バンコク日本博2025実行委員会／(株)ジェイエデュケーション
 共 催：パーソネルコンサルタントマンパワータイランド(株)／てっぺんタイランド(株)
 後 援：在タイ日本国大使館／国際交流基金バンコク日本文化センター／
 (独)日本貿易振興機構／日本政府観光局／(独)国際協力機構／
 宇宙航空研究開発機構／タイ国日本人会／御茶ノ水ロータリークラブ
 対 象：一般、ビジネス
 公式サイト URL：<https://nipponhaku.com/>

総来場者数（参加数）：151,727人 過去最多
 出展社数：295社 過去最多
 内訳：（国内出展社数：158社 海外出展社数：137社）
 出展参加国と地域数：2の国と地域
 プレス社数：228社

■開催内容

バンコク日本博2025（NIPPON HAKU BANGKOK 2025）は、日本とタイの相互理解促進および経済・文化交流の深化を目的として、バンコクにて開催された総合日本イベントである。本イベントは、観光、教育、食、エンターテインメント、ビジネスを横断的に結びつけ、日本の多様な魅力をタイの来場者に発信する場として企画・運営された。

本年は開催規模をさらに拡大し、日本の自治体、政府関連機関、民間企業、教育機関、飲食・酒類事業者など、幅広い分野から多数の出展者が参加した。特に観光・地域振興分野では、訪日観光の回復と地方誘客を見据えた情報発信が積極的に行われ、日本各地の特色ある文化・産品・体験型コンテンツが紹介された。

また、日本食および酒文化の発信も大きな柱の一つであり、KANPAI THAILANDをはじめとする日本酒・食品関連企画では、正しい知識と背景を伝えることを重視した構成とした。試飲・試食のみならず、製造背景や地域性を伝えることで、日本産品の価値理解と中長期的な市場形成につなげる取り組みを行った。

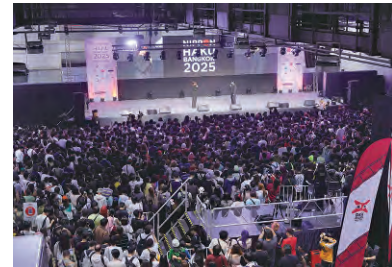
教育分野においては、日本留学・日本語学習・日本での就職に関する情報提供を行い、若年層を中心に高い関心を集めた。単なる進学案内にとどまらず、日本社会で学び、働くことのリアルな姿を伝えるセミナーや相談対応を実施し、将来的な人的交流の基盤づくりに寄与した。

エンターテインメントおよびポップカルチャー分野では、アニメ、音楽、ステージ企画を通じて幅広い世代の来場者を惹きつけ、日本への親近感を高める役割を果たした。これらの要素が相互に作用することで、会場全体として「日本を総合的に体験できる空間」を実現した。

本イベントを通じて、日本ブランド全体の価値向上、将来的な訪日需要・留学需要の創出、さらには日タイ間の持続的なパートナーシップ強化に一定の成果を上げた評価できる。今後は、出展者・来場者双方の声を踏まえ、より実効性の高い商談機会や継続的な関係構築につながる仕組みを強化し、次回以降の開催につなげていく方針である。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・今回は会場変更に伴い出展数が増加し、規模を拡大しての開催となった。
- ・日本全国から40の酒蔵が一堂に会する「日本酒フェア」を実施し、日本酒の飲み比べができる機会を提供した。
- ・日本・浅草で毎年開催されている「三社祭」にて実際に使用された提灯81個をご寄贈いただき、日本らしい厳かで華やかな雰囲気会場入口に演出した。
- ・JAXA、NSTDA、GISTDA等の日タイ両国の宇宙関連政府機関の協力のもと、宇宙産業を紹介するとともに、日タイ間で多くのコラボレーションが実現している産業分野として展示を行った。



海外パートナーイベント

Anime Festival Asia Singapore 2025 (AFASG25)



会 期：2025年11月28日（金）～30日（日）
会 場：Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre
主 催：SOZO Pte. Ltd
共 催：(株)ホリプロインターナショナル／(株)HT Entertainment／(株)ライブエグザム／
(株)ドワンゴ
後 援：シンガポール政府観光局
対 象：アニメ、マンガ、ゲーム、コスプレ、JPOP（音楽）など
公式サイト URL：https://animefestival.asia/afasg25/

総来場者数（参加数）：126,998人

内 訳：（国内入場者数（参加数）：75% 海外入場者数（参加数）：25%）

出展社数：267社＋207クリエイターブース

出展参加国と地域数：16の国と地域

プレス社数：121社

内 訳（国内プレス社数：47社 海外プレス社数：74社）



■開催内容

Anime Festival Asia Singapore 2025（AFASG25）は、日本のポップカルチャーを紹介する東南アジア最大級のイベントであり、本年も東南アジア全域から、アニメ、マンガ、音楽、コスプレといった多彩なコンテンツを通じて、あらゆる世代のファンが参加したイベントとなった。

AFASG25のハイライト

<コンサート>

AFASGの人気イベントとして、毎晩、日替わりで開催される、日本の著名なアーティストやアニソン歌手を招聘したコンサートがあり、本年も数多くのアーティストがステージを飾り、本物のパフォーマンスを現地のファンに届けた。

主なアーティスト出演アーティスト（敬称略）

asmi、ClariS、fhána、八王子P、HIMEHINA、May'n、NOMELON NOLEMON、nonoc、天城サリー（22/7）、櫻坂46、SPYAIR、蒼井翔太、高橋洋子、水曜日のカンパネラ

<DAY STAGE>

多くの作品の出演声優、制作スタッフなどが登壇し、パネルディスカッション、世界初プレミア上映会などを通じて、アニメ・マンガの最新情報を現地に届けた。

主なコンテンツは「葬送のフリーレン」、「薬屋のひとりごと」、「ちびゴジラの逆襲」、「SPY×FAMILY」、「炎炎ノ消防隊 参ノ章」など。「エリスの聖杯」は世界初上映となるプレミアム上映会を実施し人気を博した。

<展示会場>

TOHO animation、Crunchyroll、Project Sekai、「ぼっち・ざ・ろっく！」ブース、集英社Manga plusなどが出展し人気コンテンツの展示ブースが一堂に揃った、華やかなイベントとなった。

また、シンガポール初上陸として、「JOJO CARAVAN」、「新海誠」ブースなどが設けられ、作品からの展示物を加えて、物販も盛況であった。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

(株)ドワンゴと共に推進する国際的クリエイター連携プログラム「Asia Creators Cross」の一環として、ニコニコ超会議2025の新企画として人気を博した「超ニコニコ盆踊り」を「Cho-BON Dance Japan powered by Dwango」として展開。

来場者が会場に設けられたステージを囲み、人気のアニメソングやボーカロイド楽曲に合わせて踊りながら一体感を味わえる、新しい参加型のライブ企画で、現地のファンと日本のカルチャーをつなぐステージプログラムとなった。



コ・フェスタ 2025 実施報告書

発行日：2026年3月
発行：特定非営利活動法人映像産業振興機構
デザイン監修：(株)OXCE
Printed in JAPAN
© VIPO2024

住 所：東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル2F
電 話：03-3543-7531
F A X：03-3543-7533
<https://www.cofesta.go.jp/>

※著作権者から文書による許諾を得ずに、無断で複写・複製することは禁じられています。

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

FSC
www.fsc.org
リサイクル
リサイクル原料を
使用した紙
FSC C178432

processed with
**CARBON
ZERO
ENERGY**
SUSTAINABLE PRINTING
ASSOCIATION OF JAPAN
SPA-230015-J

CARBON EMISSION
473.107・332.671 kg CO₂/copy
CoFesta2025実施報告書は、Scope1,2の
GHG排出量が実質ゼロで稼働するカーボン
ゼロエネルギー工場にて販売しています。
CZE-32601108

**CARBON
NEUTRAL
PRINT**
SUSTAINABLE PRINTING
ASSOCIATION OF JAPAN
SPA-230015-J

CARBON EMISSION
332.671 g CO₂/copy
▶ **0**
CoFesta2025実施報告書は、CO₂排出量を
算定しカーボンオフセットすることで、CO₂
排出量を実質ゼロにしています。
CNP-32601108

R60
古紙/パルプ配合率60%再生紙を使用